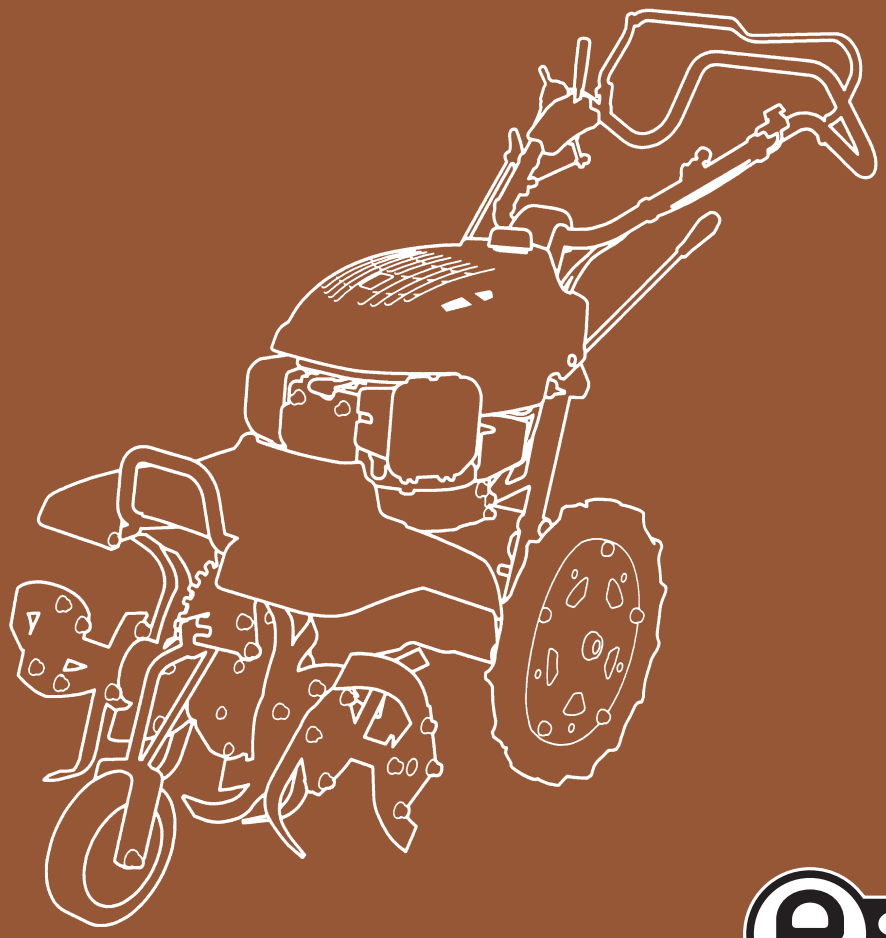
HONDA
汎 用 製 品

耕うん機

FF500

取扱説明書



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・・4
安全ラベル ・・・・・・

運転操作のしかた……36
変速……36
運転……38
耕うん作業……41

エンジンのとめかた……42

定期点検を行いましょう……45

点検･整備のしかた……46
エンジンオイルの交換……46
エアクリーナ(空気清浄器)の清掃･交換……49
クラッチケースオイルの点検……50
変速機オイルの点検……51
点火プラグの点検･調整･交換……52
エンジン回転調整ケーブルの点検･調整……54
主クラッチケーブルの調整……55
デフロックレバーケーブルの調整……56
耕うん爪(ロータリ)の点検･交換……57

使用後の手入れ……64

長期間使用しないときの手入れ……65

故障のときは……67

車への積載のしかた……70
車の荷台への積載……70

主要諸元……72

同梱部品およびハンドルの組立てかた……73

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・急傾斜、溝または畦越えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合は、平坦で安定した場所にエンジンを止めて、車輪止め等を使い確実に固定してください。
- 爪(ロータリ)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグキャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグキャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 耕うん作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音器)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

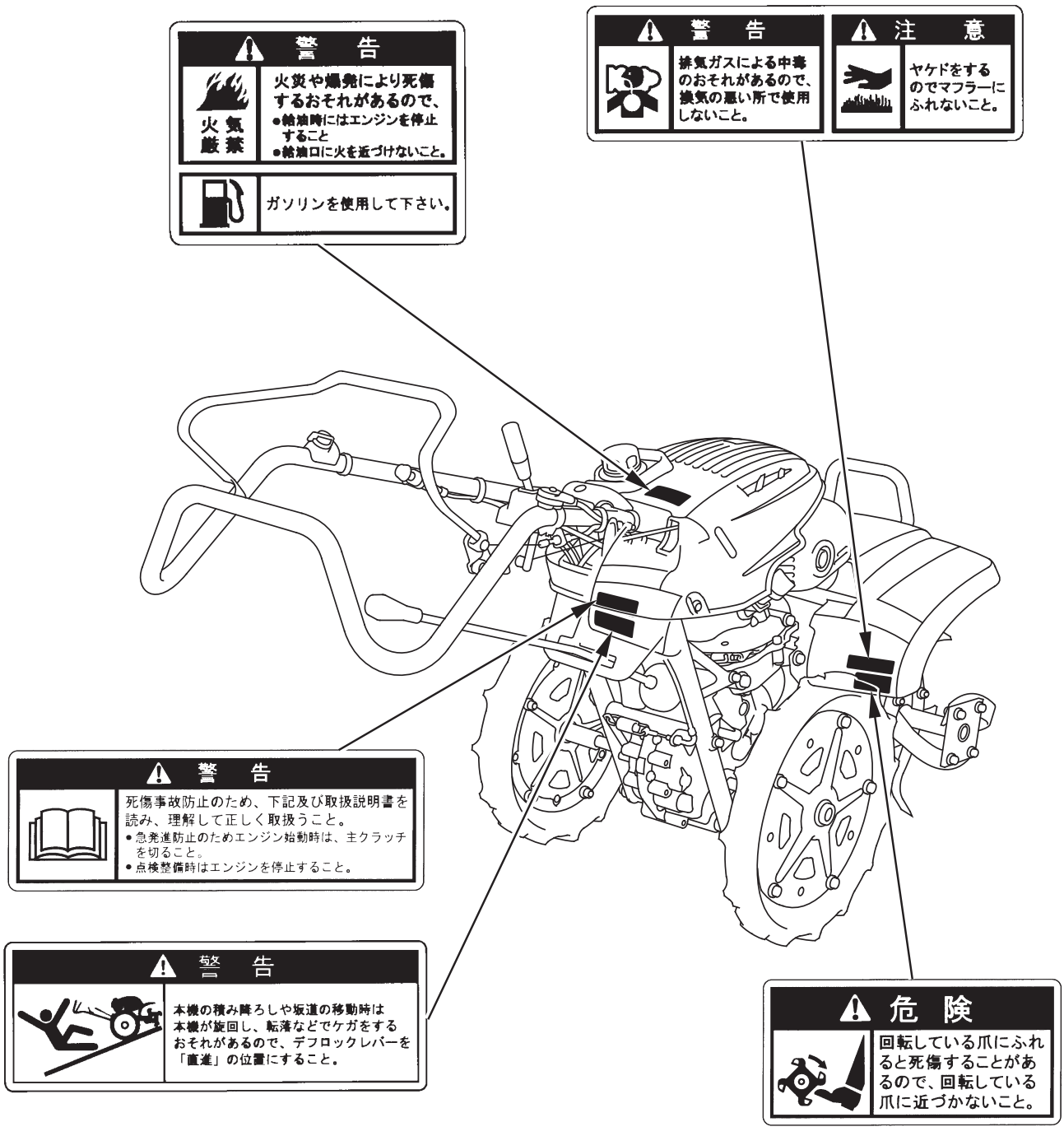
警告

●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・本機をトラック等に積み降ろしする際は、アユミ板を使用してください。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - ・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのある車輪幅以上の幅が十分あるものを使用してください。
  - ・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの 4 倍の長さ)
  - ・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  - ・耕うん爪(ロータリ)装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
  - ・積み込みは前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
  - ・デフロックレバーをかならず“直進”にしてください。
  - ・アユミ板に乗る前に、車輪とアユミ板が一直線であることを確認してください。
  - ・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを放さないでください。主クラッチレバーを放すと、駆動力が切れ、本機が思わぬ動きをすることがあります。
  - ・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れてください。
  - ・燃料コックは“止”にして運搬してください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



※ フレーム号機および銘板の表示位置は
11頁をご覧ください。
（参考:左の銘板はFF500-Lタイプの物です。）

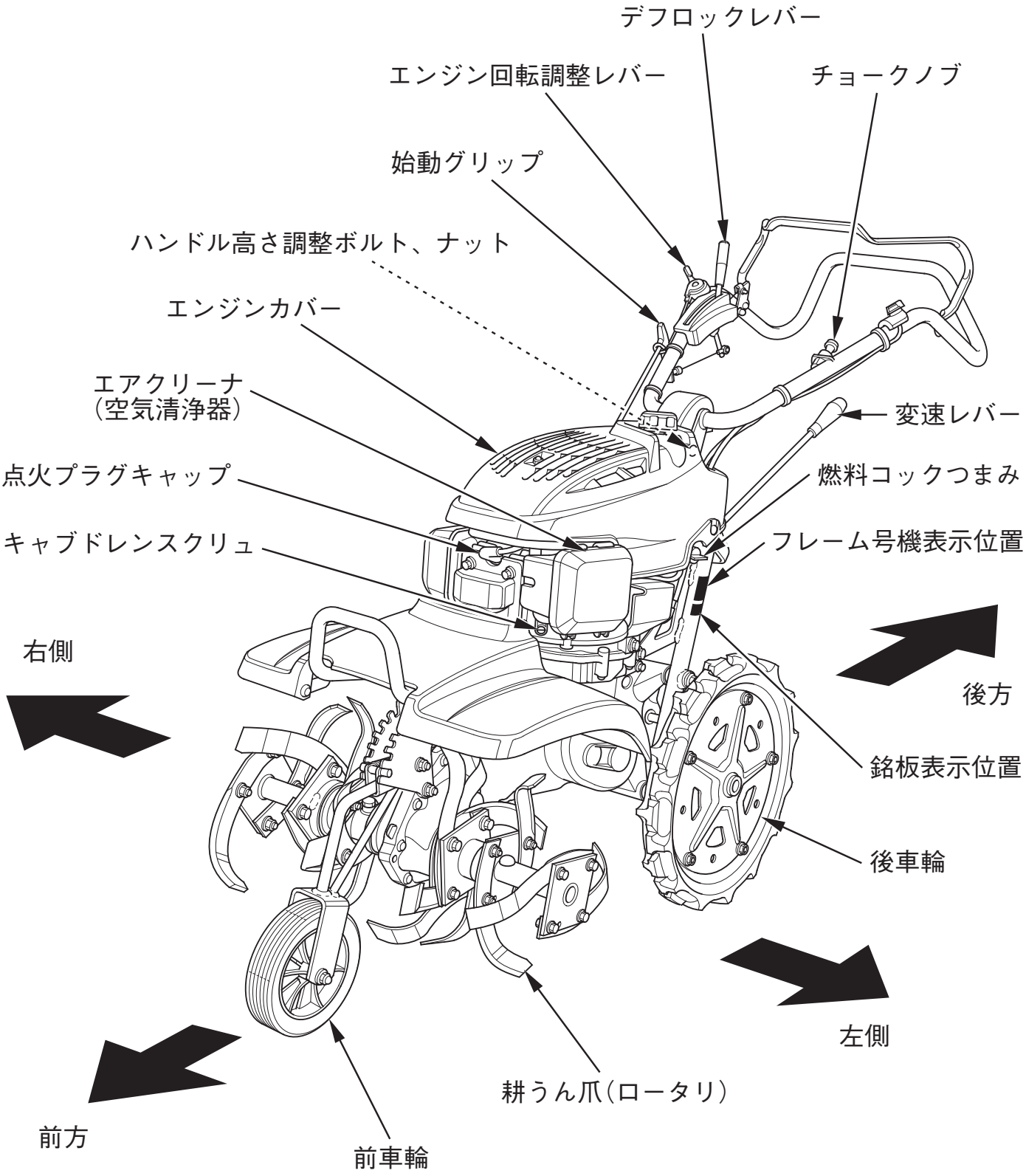
本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

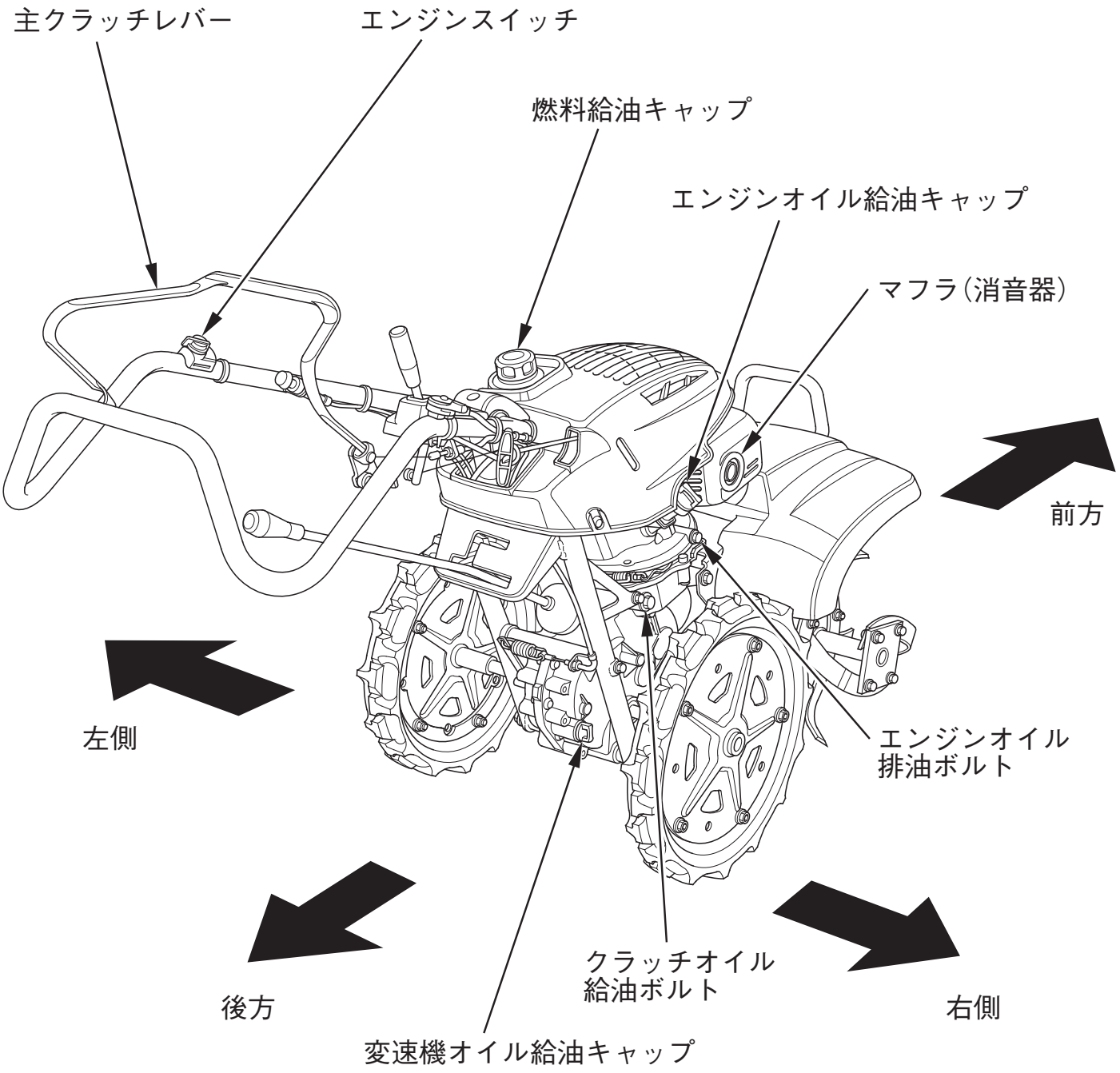
認定番号

安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号
ホンダFF500	29039

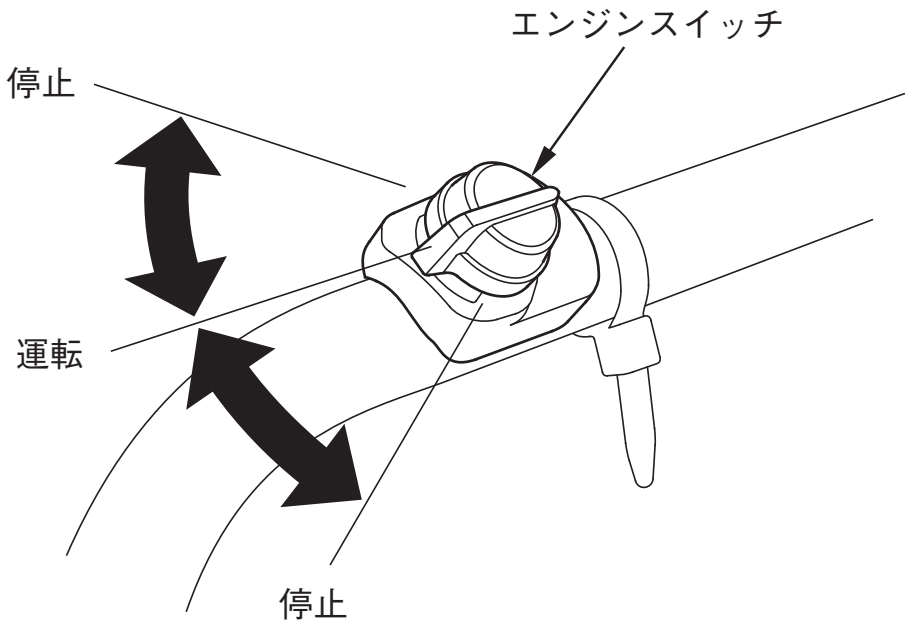
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




主クラッチレバー
エンジンスイッチ
燃料給油キャップ
エンジンオイル給油キャップ
マフラ(消音器)
前方
左側
エンジンオイル
排油ボルト
クラッチオイル
給油ボルト
後方
右側
変速機オイル給油キャップ

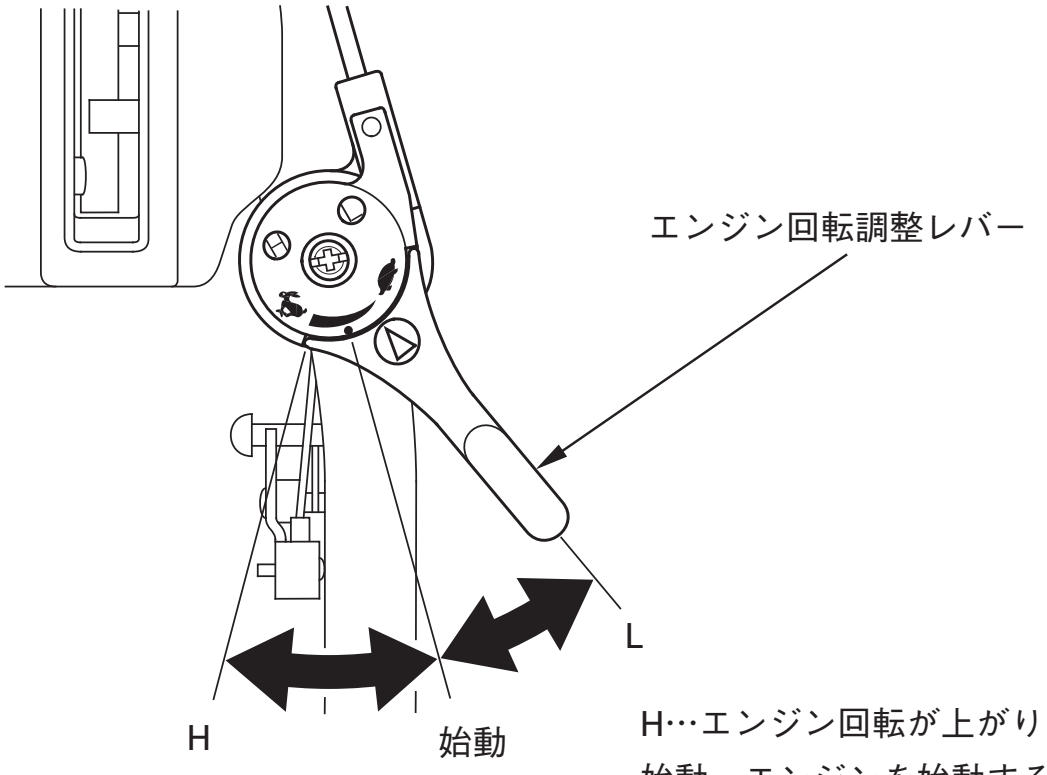
エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



エンジン回転調整レバー

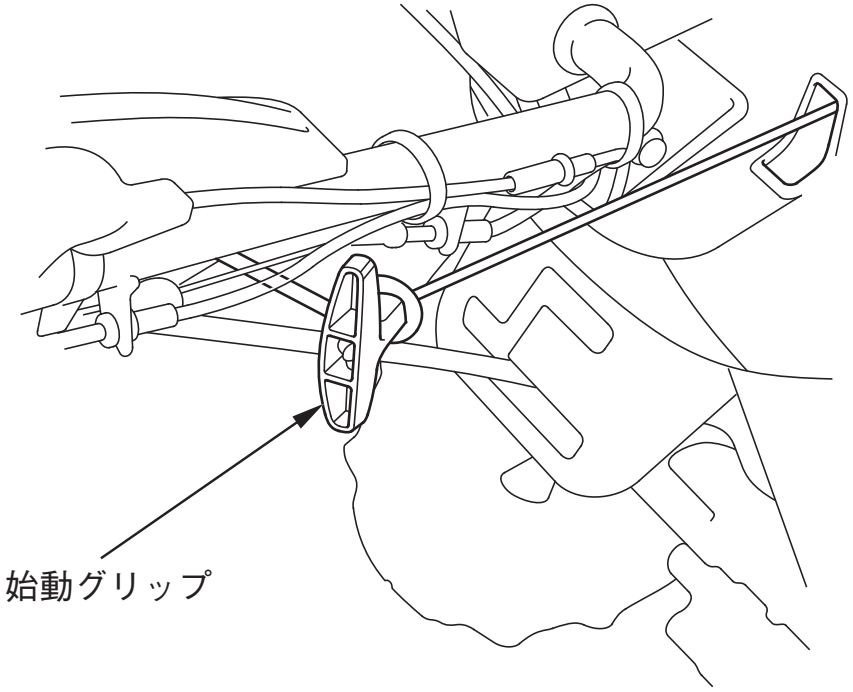
エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



H…エンジン回転が上がります
始動…エンジンを始動するときの位置です
L…エンジン回転が下がります

始動グリップ

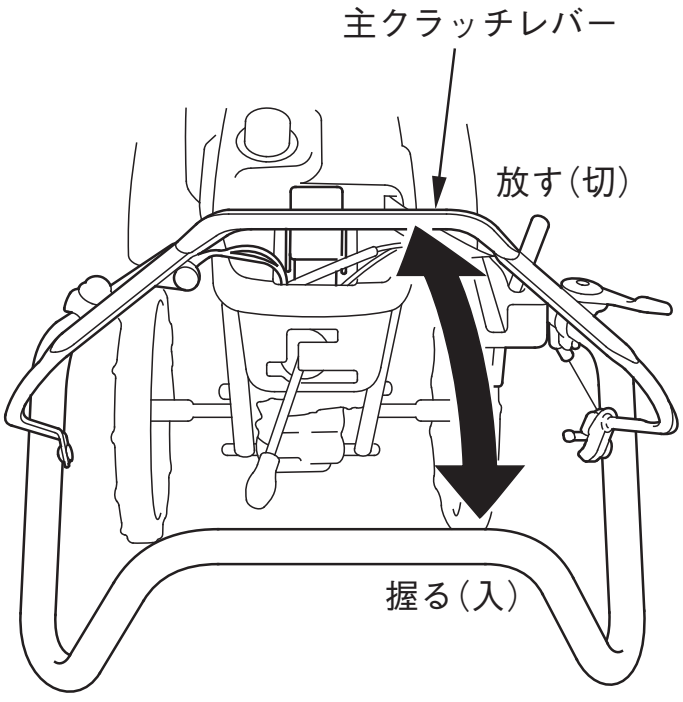
エンジンを始動するときに操作します。



主クラッチレバー

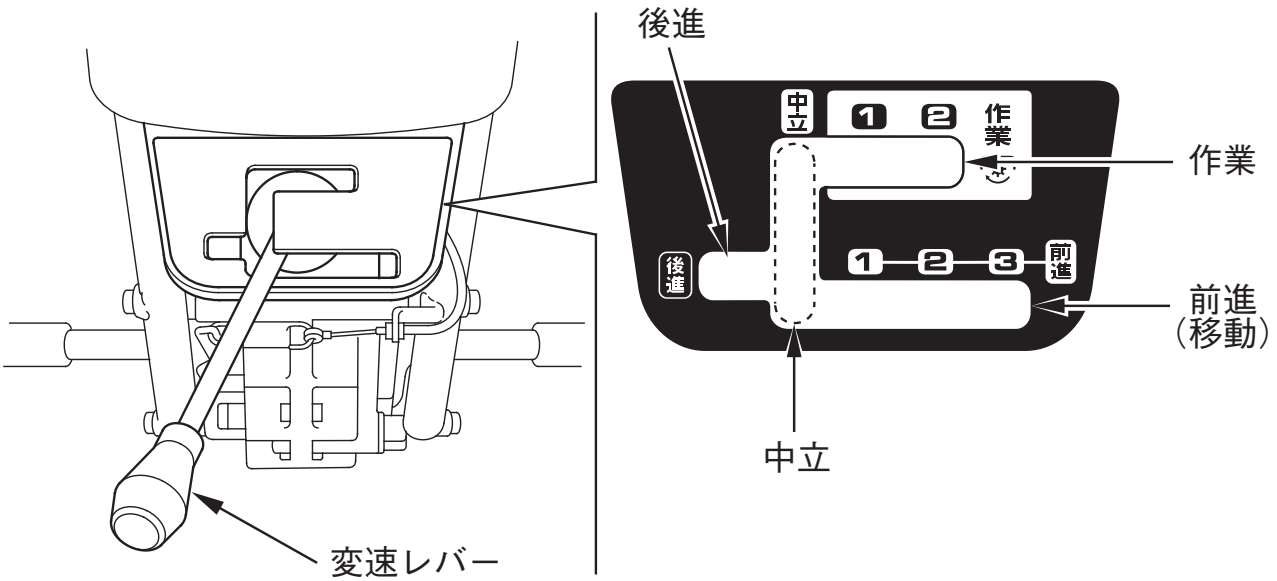
主クラッチは、車輪および耕うん爪(ロータリ)への動力を断続する装置です。

主クラッチレバーを握ると動力が伝わり、放すと動力が切れます。



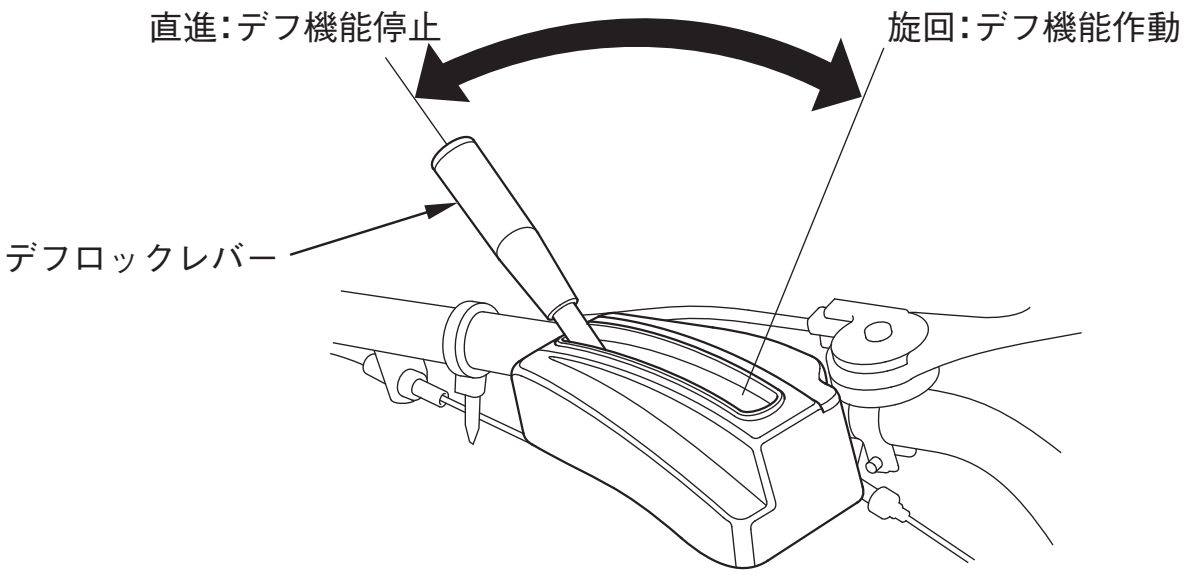
変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。
作業位置でのみ耕うん爪(ロータリ)が回転します。



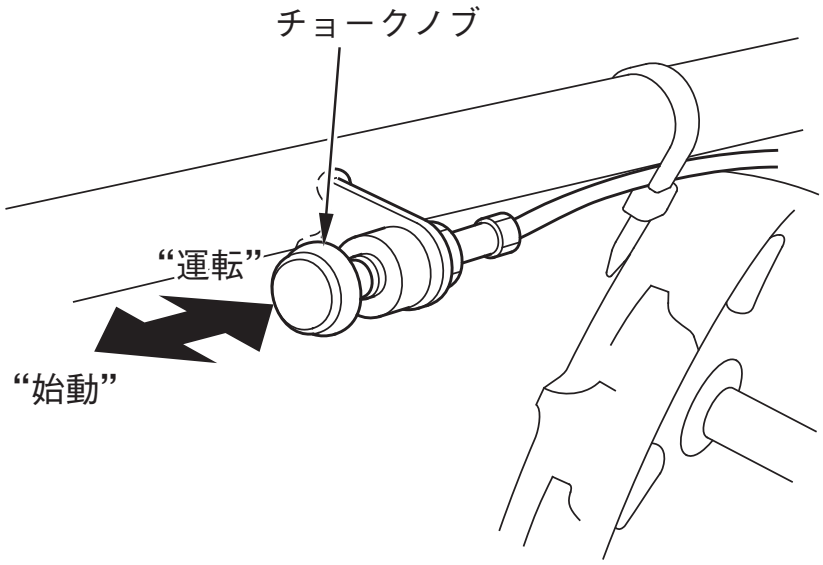
デフロックレバー

デフ機能を作動、停止するレバーです。
“旋回”:デフ機能が働き、旋回性が向上します。
“直進”:デフ機能がロックされ、直進性が向上します。



チョークノブ

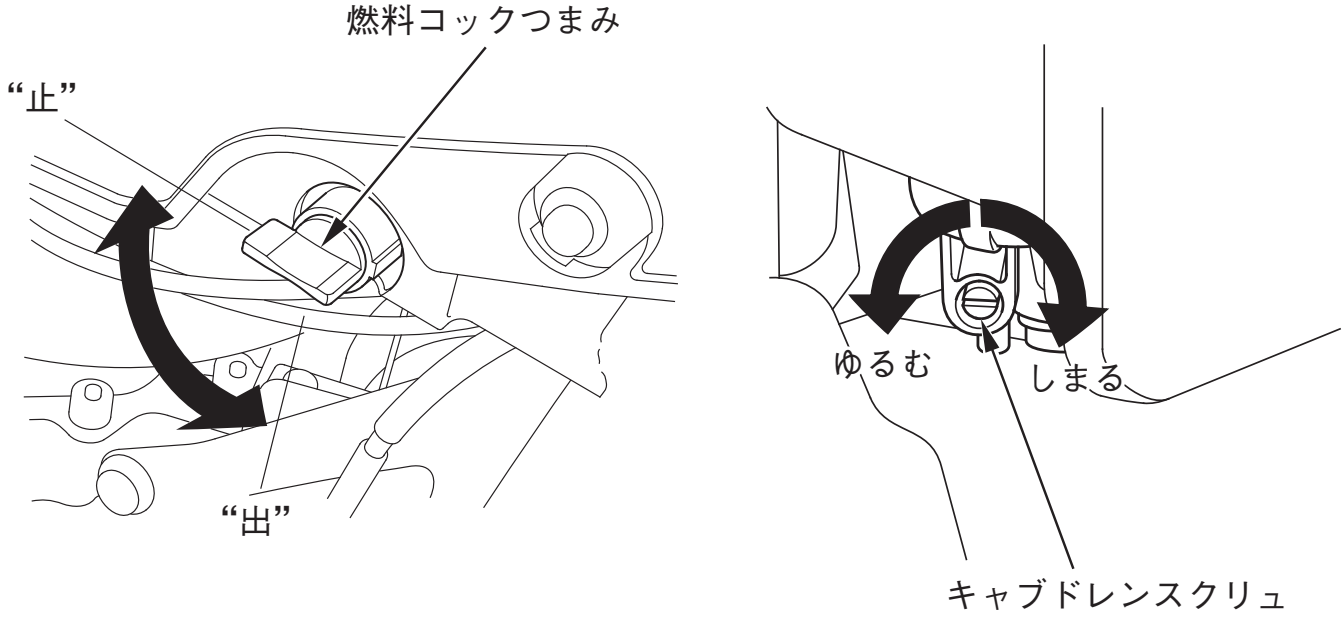
エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



燃料コックつまみ、キャブドレンスクリュ

燃料コックつまみは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。

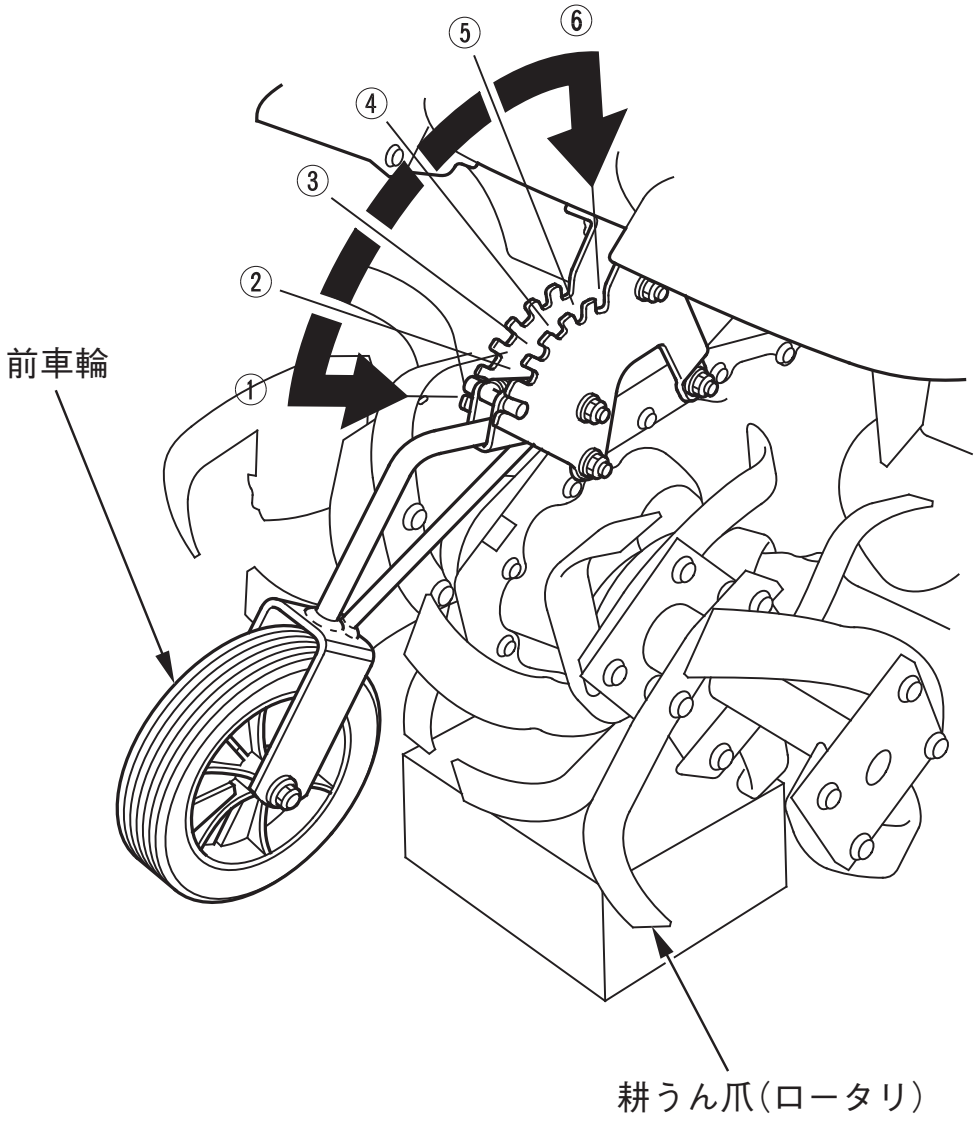
キャブドレンスクリュは燃料を抜くときに操作します。燃料の抜きかたは 65 頁を参照してください。



前車輪

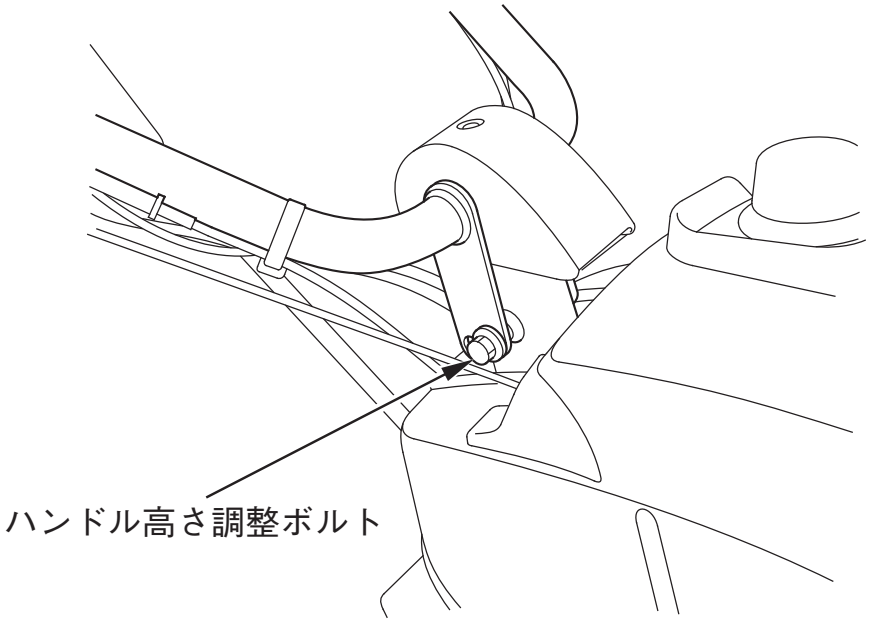
前車輪の高さは、移動や耕うん深さ(耕深)により6段階に調整できます。
(調整のしかたは27頁参照)

① ・・・・・・・・・・・・・・・移動するときの位置(地面よりロータリが約30 mmアップ)
② ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さを最も浅くする(耕深約20 mm)
③ ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さを浅くする(耕深約60 mm)
④ ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さを深くする(耕深約120 mm)
⑤ ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さをより深くする(耕深約160 mm)
⑥ ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さを最も深くする(耕深約200 mm)



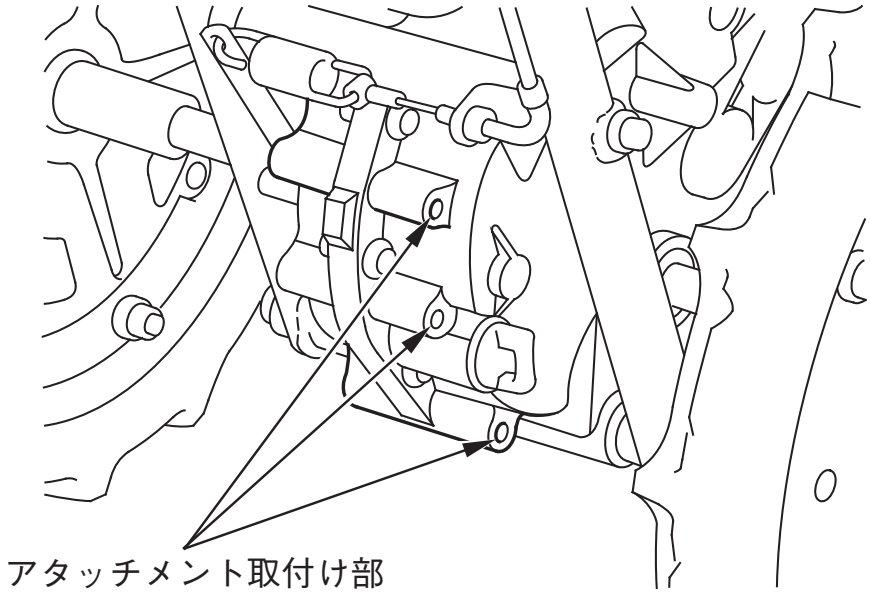
ハンドル高さ調整ボルト、ナット

ハンドルの高さを作業内容や運転者の身長に合わせるボルトです。ナットで締付けて固定します。
ハンドルの高さを2段階に調整できます。(調整は30頁参照)



アタッチメント取付け部

アタッチメントを取付けるときに使用します。



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平(耕うん爪と後車輪が接地した状態)にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……燃料の量(20、21頁参照)、オイルの量(22頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン周りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動……レバーの遊び量(54～56頁参照)は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け……ハンドルにゆるみ、ガタはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……被覆の破れ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は31～35頁参照)
  エンジンスイッチで確実に停止しますか。
  (停止手順は42～44頁参照)
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

燃料の点検

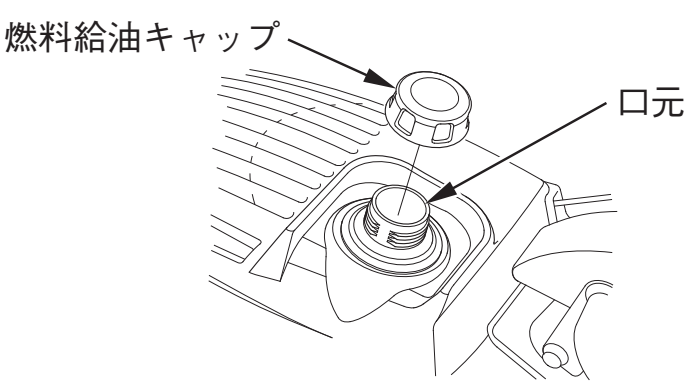
⚠警告

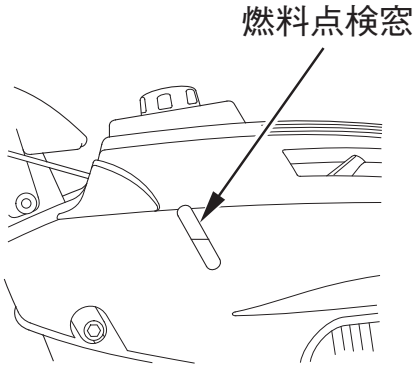
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。
  燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を耕うん爪(ロータリ)と後車輪が接地した状態にして燃料点検窓から、燃料の量を点検します。
少ない場合は燃料給油キャップを外し、給油限界位置を越えないように補給してください。(21頁参照)





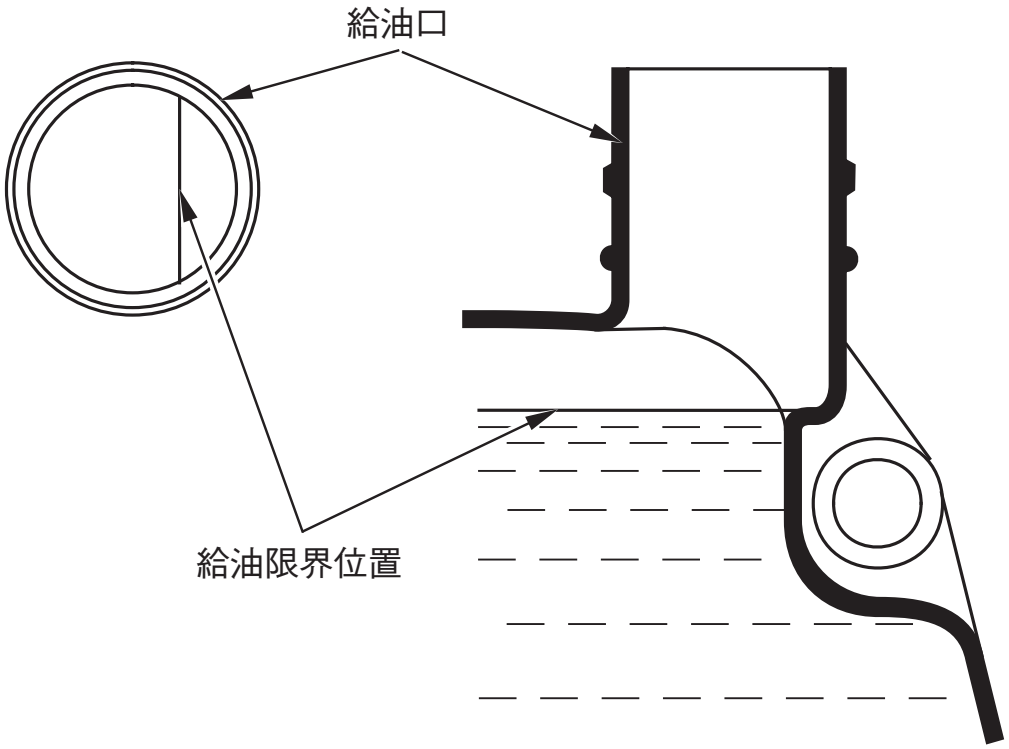
補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 本機を耕うん爪(ロータリ)と後車輪が接地した状態にして燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップから燃料が漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

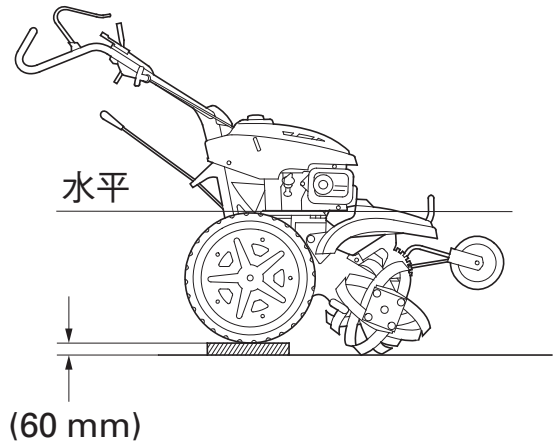


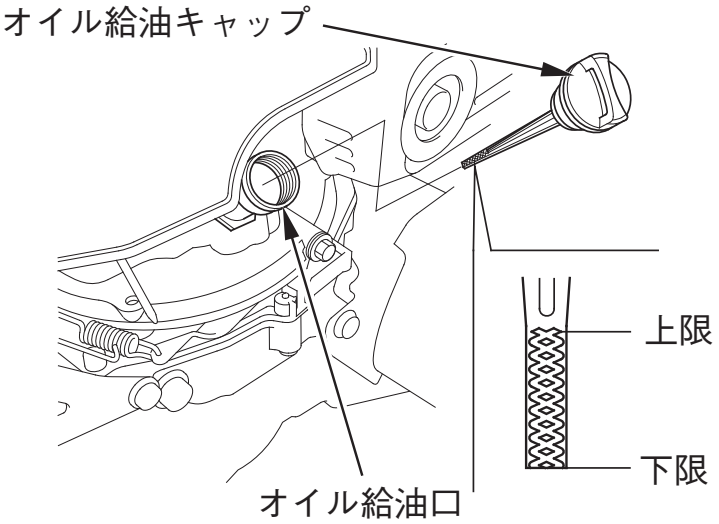
エンジンオイルの点検

点検［水平状態の場合］

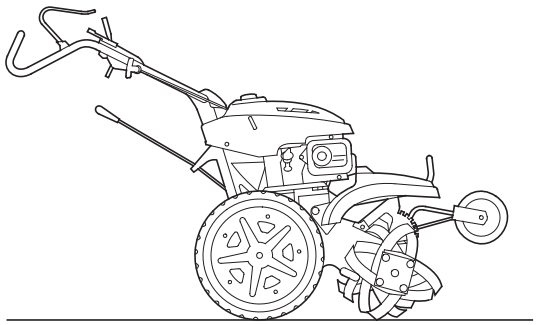
1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。
2. 平坦な場所で本機のエンジン締付け座面を水平(耕うん爪を接地させて後車輪を60 mm浮かせた状態)にしてオイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口にあたった位置でキャップを抜取り、ゲージ部でオイル量を確認してください。
   油面が下限を下まわっているときは、上限までオイルを補給してください。(23頁参照)
3. エンジンオイルの汚れ、変色を点検します。汚れや変色が著しい場合は、エンジンオイルを交換してください。(交換時期、方法は46～48頁参照)
4. 点検後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。

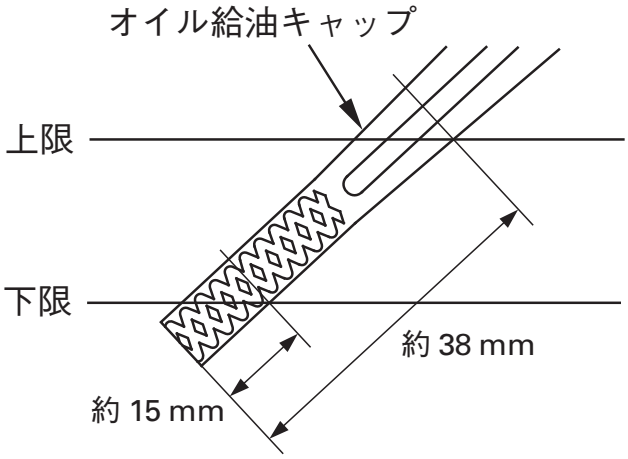
［水平状態の場合］





［後車輪接地状態の場合］

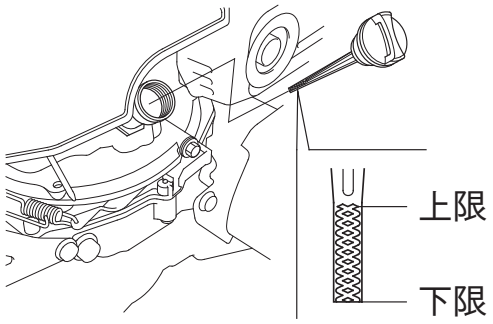




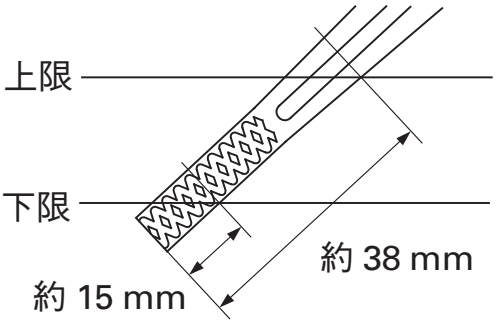
補給［水平状態の場合］

- 少ないときには、平坦な場所で本機のエンジン締付け座面を水平（耕うん爪を接地させて後車輪を60 mm浮かせた状態）にして、オイル給油キャップを外し、新しいエンジンオイルを上限まで補給します。
- 補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。

［水平状態の場合］

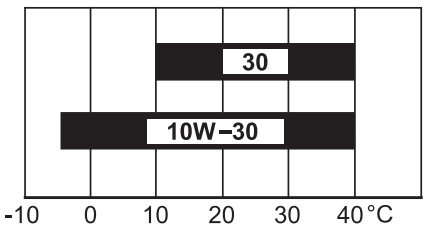


［後車輪接地状態の場合］



- 推奨オイル
  Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
  またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



外気温

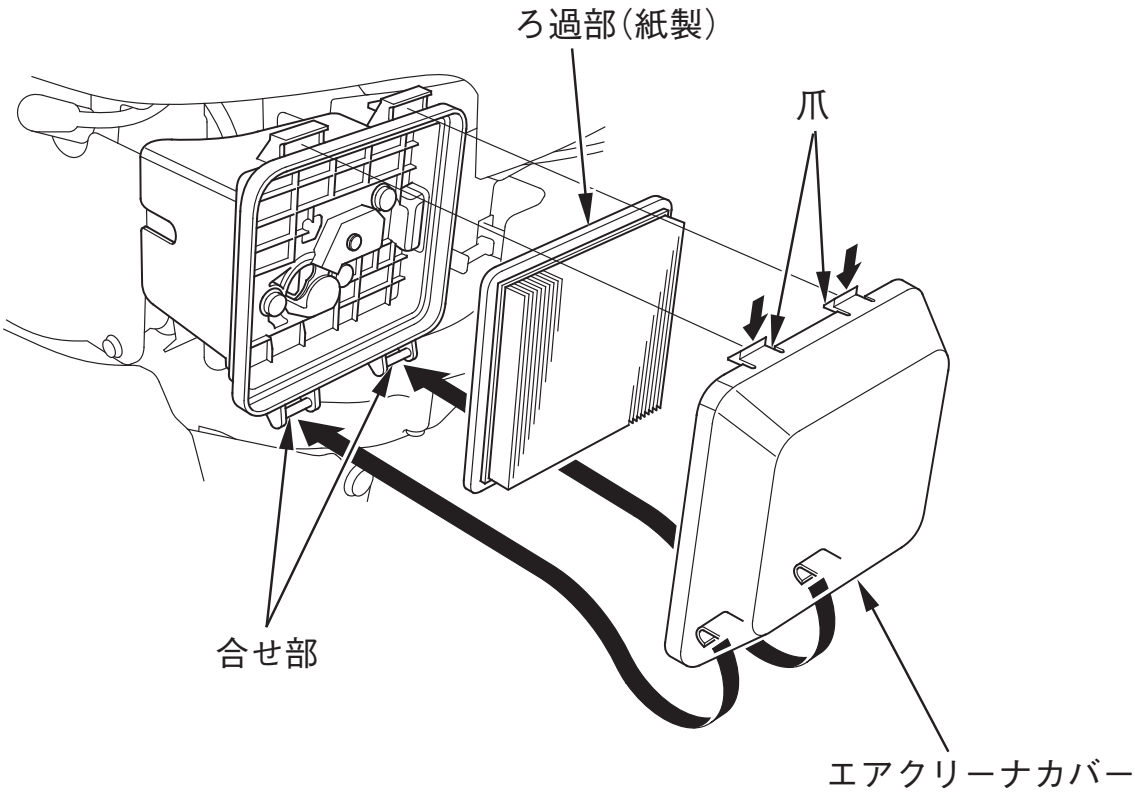
エンジンオイル量：0.55 L

取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナ(空気清浄器)の点検

- エアクリーナカバーを外し、ろ過部(紙製)が汚れていないか点検します。
  エアクリーナカバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行ないます。
- 汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は 49 頁参照)



取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(紙製)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

耕うん爪(ロータリ)、ハンドル取付部の締付け点検

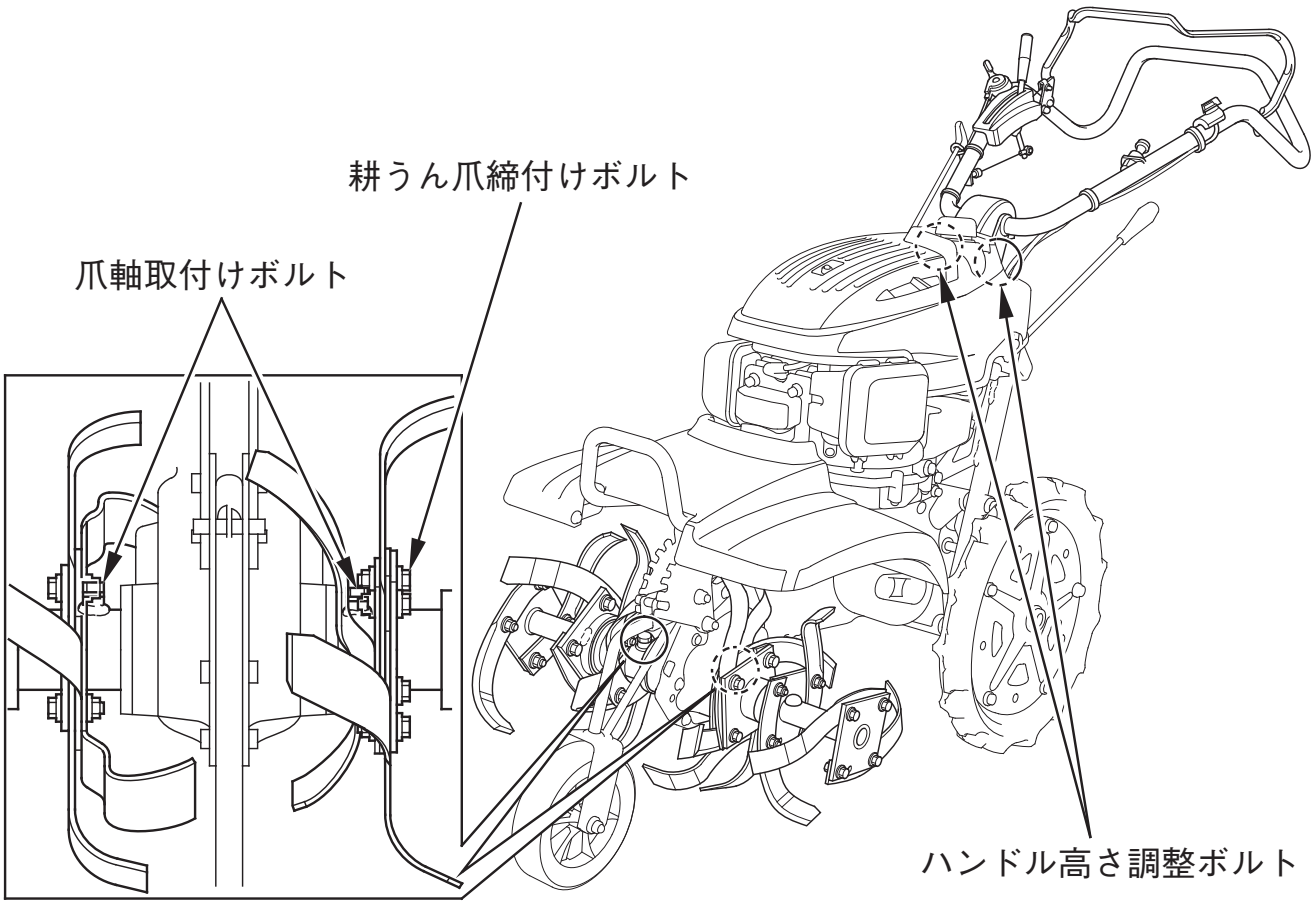
⚠注意

- 点検は平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。
- 耕うん爪(ロータリ)部の点検、増締めは厚手の手袋を着用して行ってください。

締付け箇所のゆるみを点検します。ゆるみがあれば増締めをしてください。

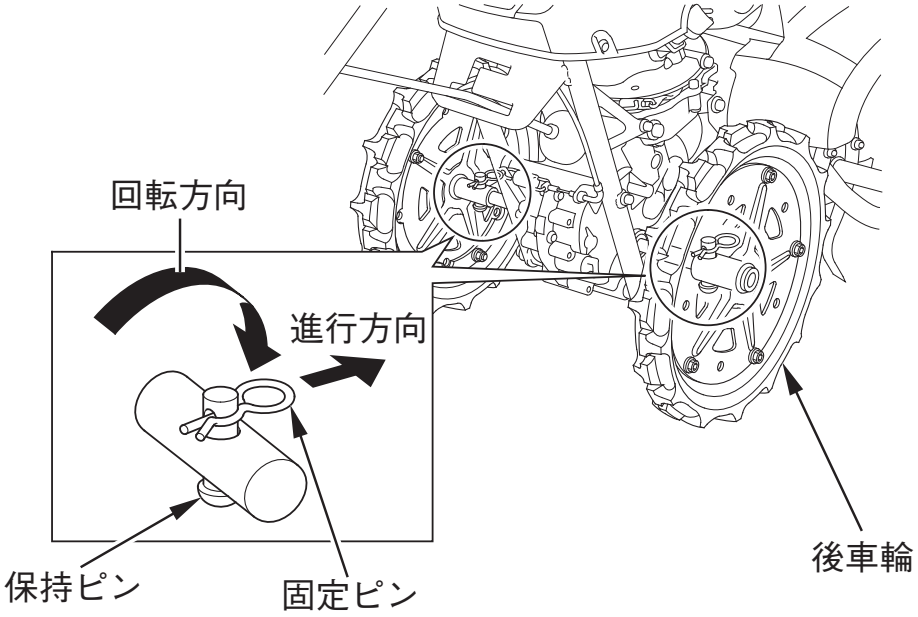
締付け箇所

- 爪軸取付けボルト
- ハンドル高さ調整ボルト
- 耕うん爪締付けボルト



後車輪取付けピンの点検

保持ピン、固定ピンが確実に取付けられているか点検します。
後車輪取付けピンは、後車輪に異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐため、折れるしくみになっています。折れたり、付いていない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。



耕うん深さ(耕深)の調整

耕うん深さ(耕深)は前車輪を前方に引き、上に持ち上げて調整します。

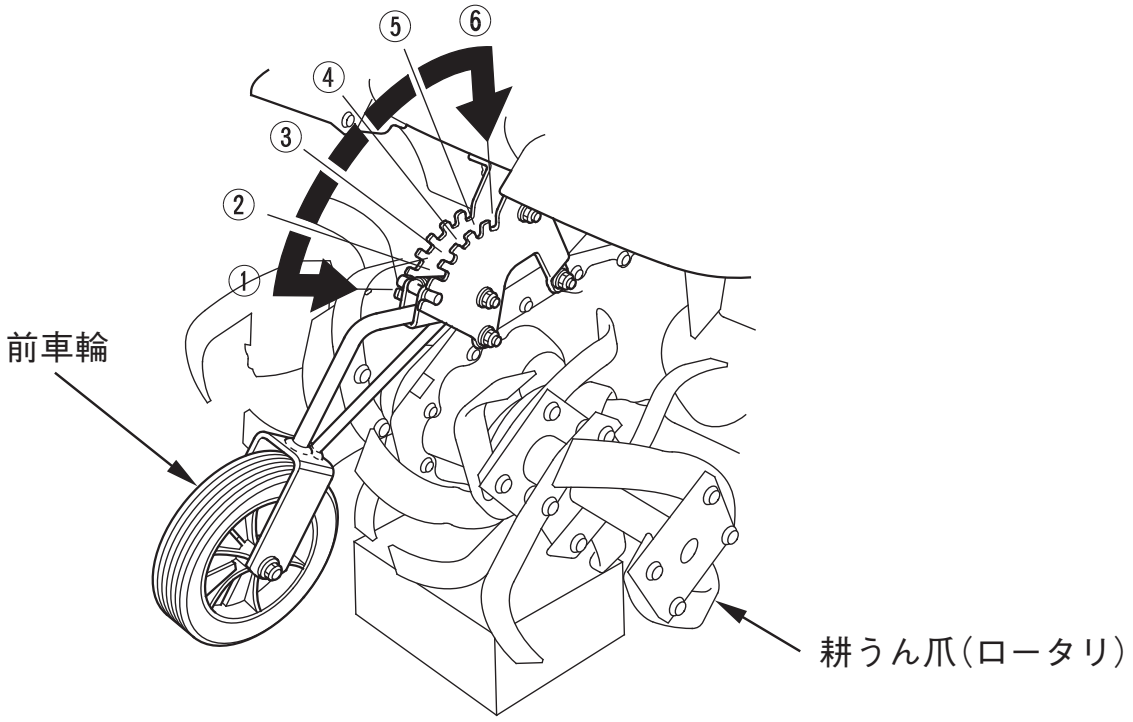
⚠注意

調整は平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。

調整のしかた

1. 耕うん爪(ロータリ)軸の下に台を置くなどして本機が動かないように固定します。
2. 前車輪を前方に引き、上に持ち上げて適正なくぼみ(②～⑥)に確実にはめ込みます。

① ・・・・・・・・・・・・・・・移動するときの位置(地面よりロータリが約30 mmアップ)
② ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さを最も浅くする(耕深約20 mm)
③ ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さを浅くする(耕深約60 mm)
④ ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さを深くする(耕深約120 mm)
⑤ ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さをより深くする(耕深約160 mm)
⑥ ・・・・・・・・・・・・・・・耕うん深さを最も深くする(耕深約200 mm)



- 土が柔らかくて耕うん爪(ロータリ)が潜ってしまうときや土が硬いときには、耕うん深さを浅くしてください。

耕うん幅の調整

耕うん幅の標準は、幅広です。耕うん幅を狭くする場合は、外側の耕うん爪(ロータリ)を外して行います。

- 耕うん幅と後車輪の車輪幅は、広狭を同じにしてください。また、左右も広狭を同じにしてください。
- 耕うん幅を狭くすると、逆回転する外側の耕うん爪(ロータリ)が外されるため、正回転のみの耕うんとなります。

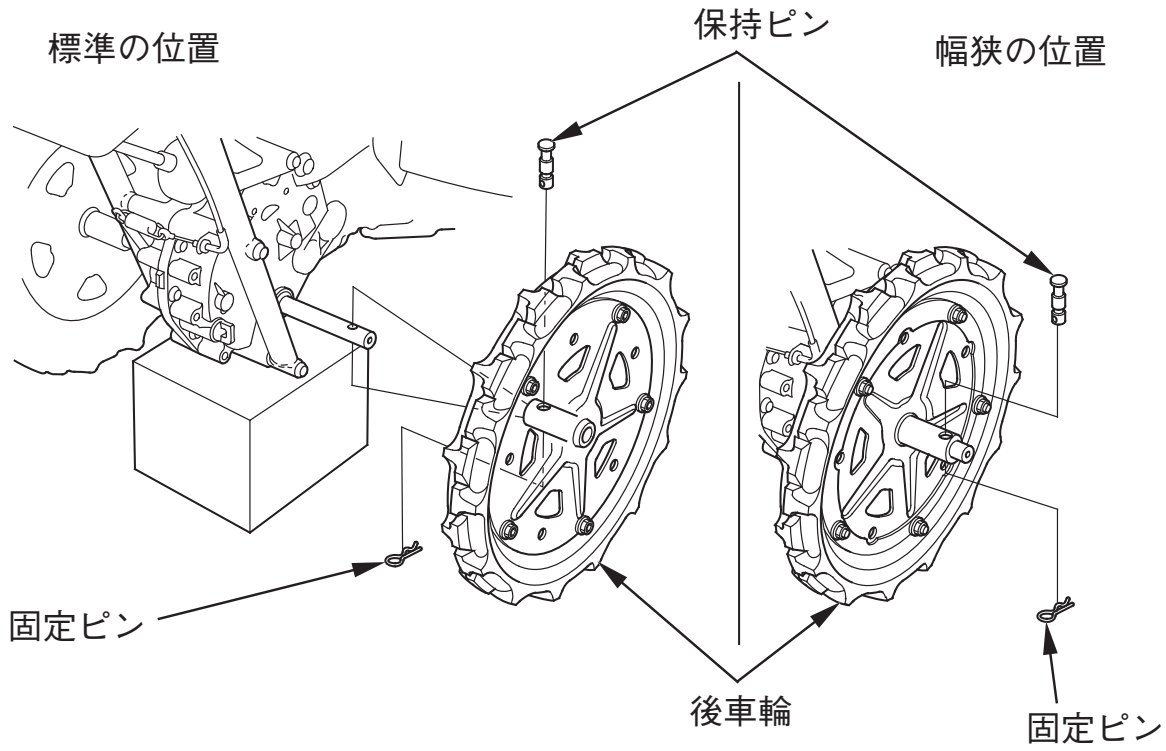
⚠注意

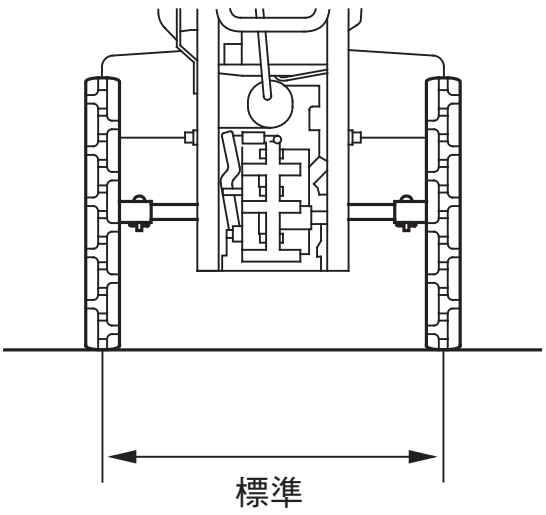
- 調整は、平坦な場所でエンジンを停止し、点火プラグキャップを外してから行ってください。
- 耕うん幅の調整は、厚手の手袋を着用して行ってください。

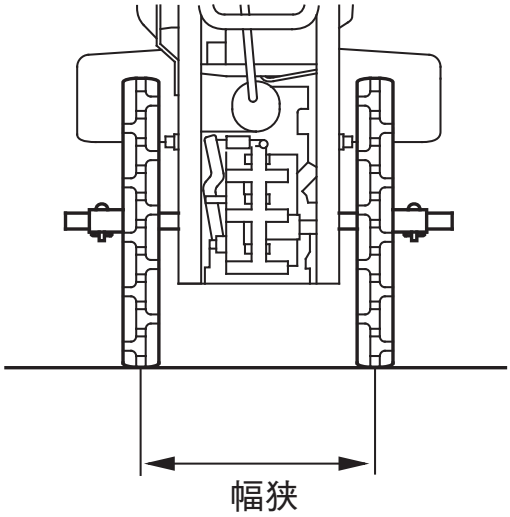
1. 前車輪を「移動するときの位置」にします。(27 頁参照)
2. 外側の耕うん爪(ロータリ)を取外し、または取付けます。取外しは59頁を参照し、取付は60、61 頁を参照してください。
3. 前車輪を「移動するときの位置」以外にして、耕うん爪(ロータリ)を接地させます。
4. 後車輪の車輪幅を耕うん幅に合わせて変更します。(29頁参照)

後車輪の車輪幅変更：

1. 後車輪軸の下に台を置くなどして車輪を浮かせて本機が動かないように固定します。
2. 固定ピン、保持ピンを抜き車輪を外し、車輪を反転させて、保持ピン、固定ピンで固定します。逆側の車輪も同様に反転させます。







ハンドル高さの調整

ハンドル高さ調整ボルトを外し使い易い高さに合わせて固定してください。ハンドル高さを、作業内容や運転者の身長に合わせ２段階に調整できます。

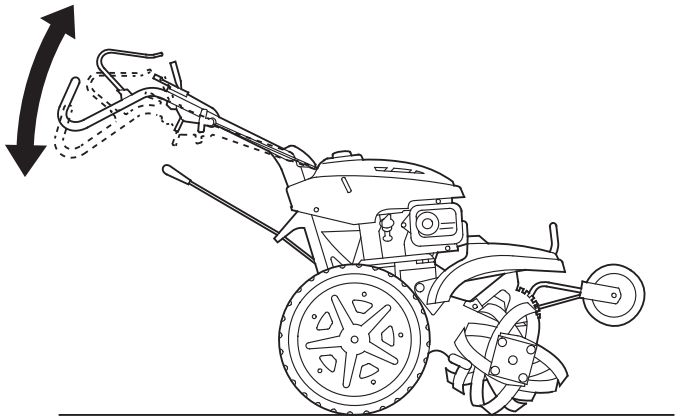
⚠注意

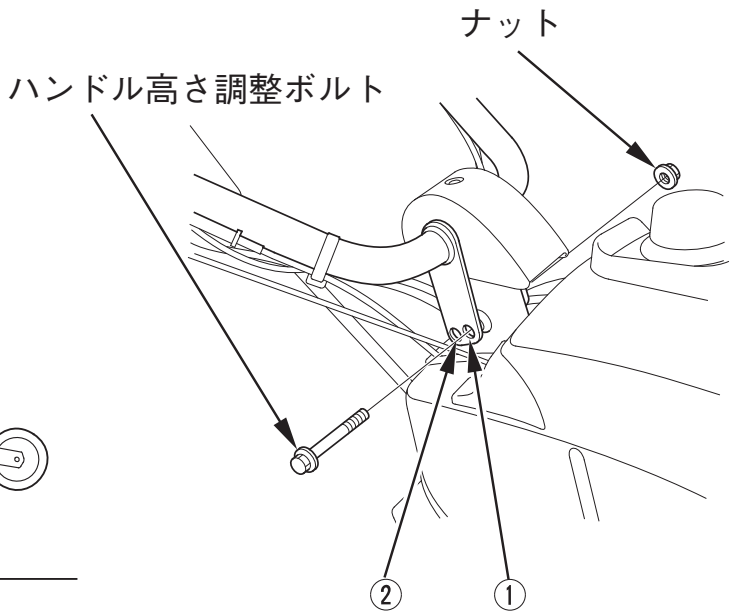
調整は平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。

調整のしかた

1. ハンドル高さ調整ボルト、ナットを外します。
2. ハンドルの高さを変え、穴位置に合わせてハンドル高さ調整ボルトを差込み、ハンドル高さ調整ボルト、ナットを確実に締付けます。

① ･･･ハンドル高さが高くなる。
② ･･･ハンドル高さが低くなる。





ご自身で調整できない場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

取扱いのポイント

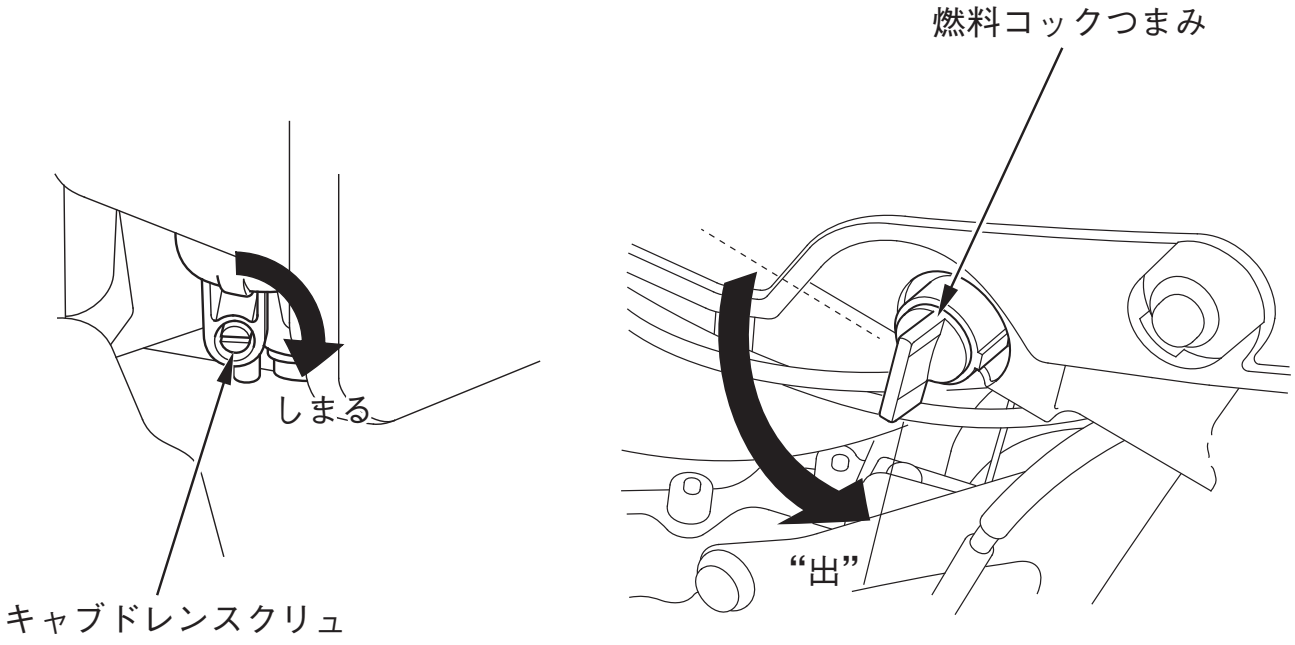
ハンドルのガタがないようにボルト、ナットは確実に締付けてください。

エンジンのかけかた

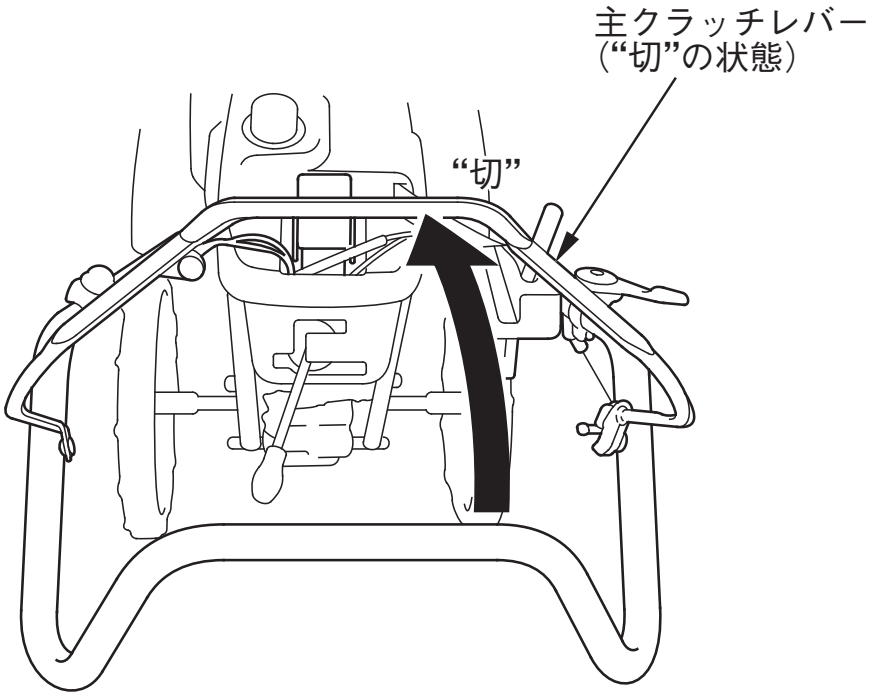
⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 本機は平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

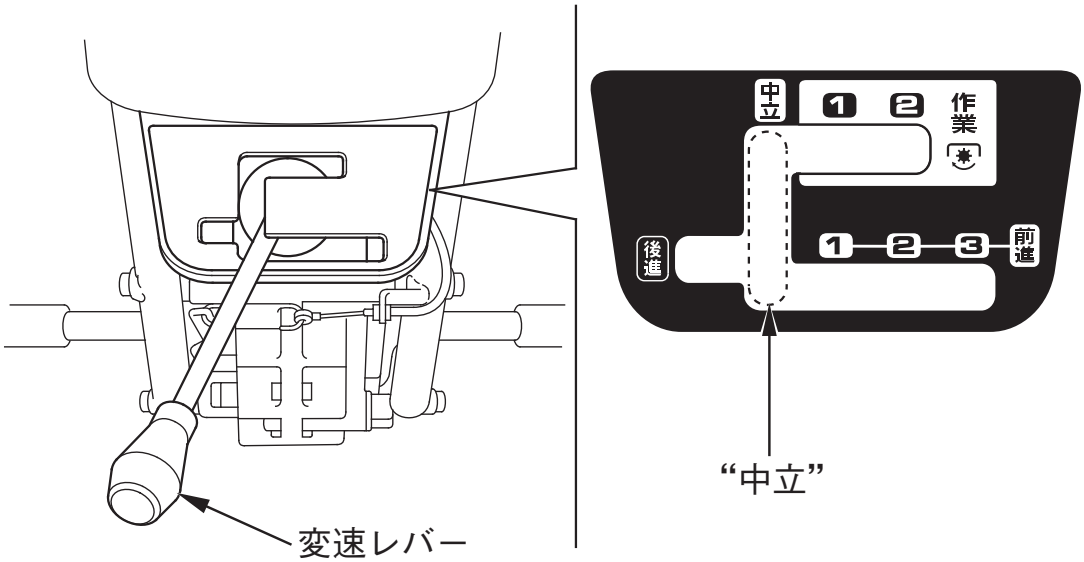
1. キャブドレンスクリュが確実にしまっていることを㊀ドライバ等で確認してください。燃料コックつまみを“出”にします。



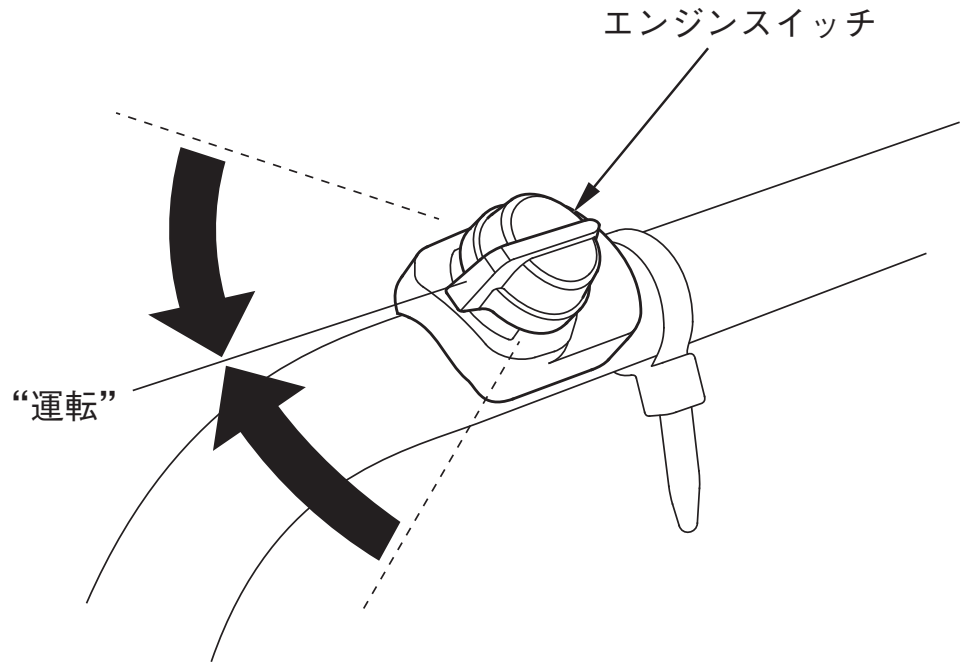
2. 主クラッチレバーが“切”になっていることを確認してください。



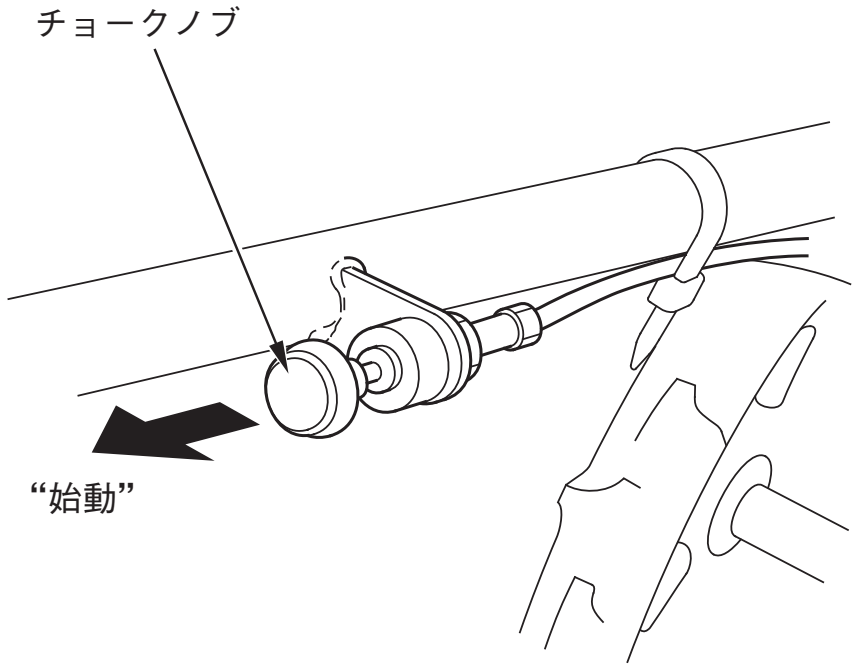
3. 変速レバーが“中立”になっていることを確認してください。



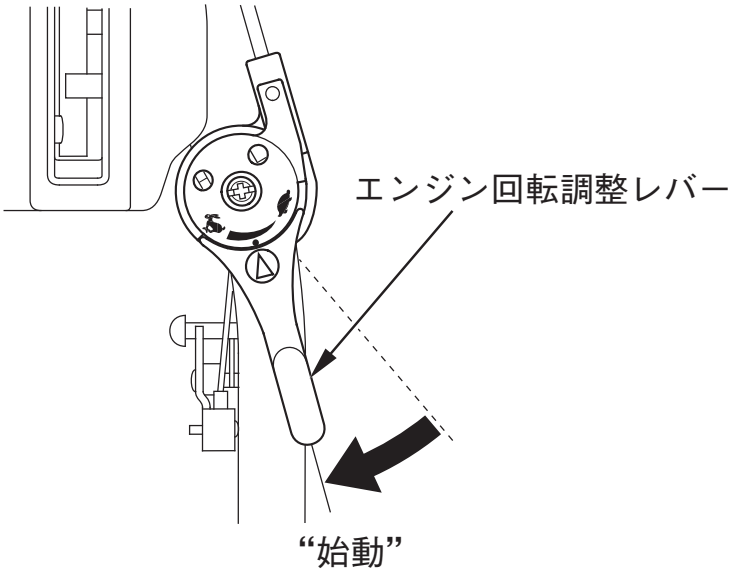
4. エンジンスイッチを**“運転”**の位置にします。



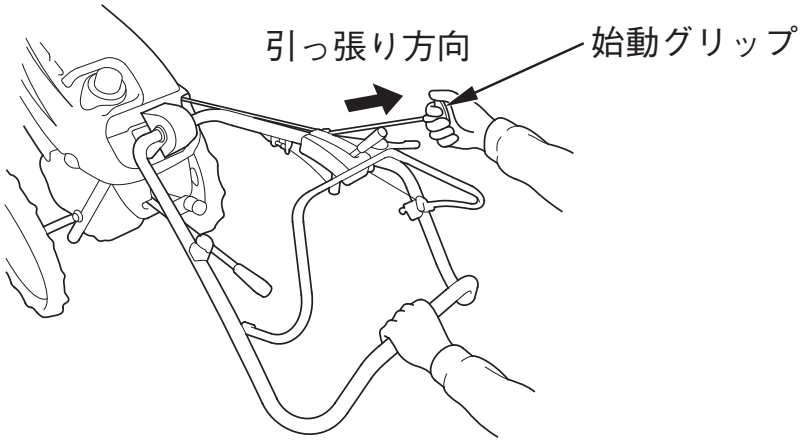
5. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョークノブを**“始動”**の位置にします。



6. エンジン回転調整レバーを**“始動”**の位置に合わせます。



7. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。



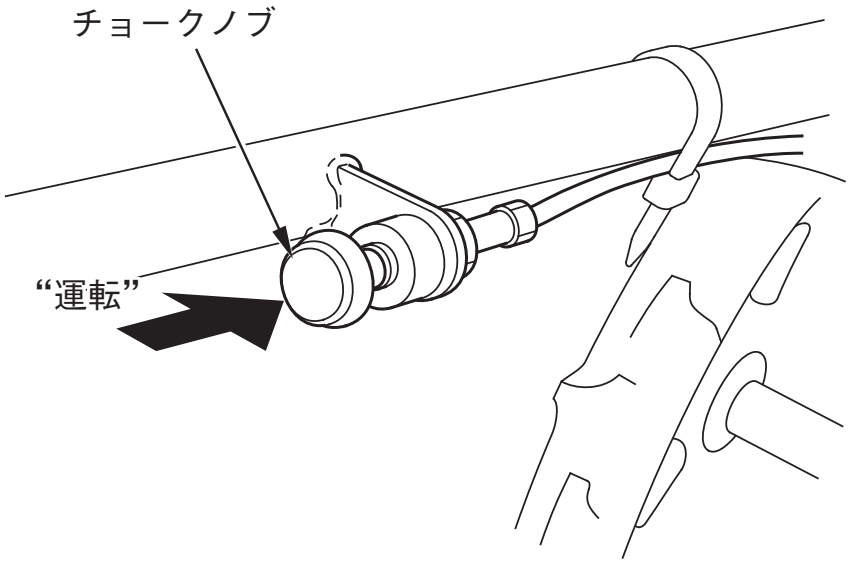
⚠注意

始動グリップを引くときは、主クラッチレバーを握らないでください。また、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

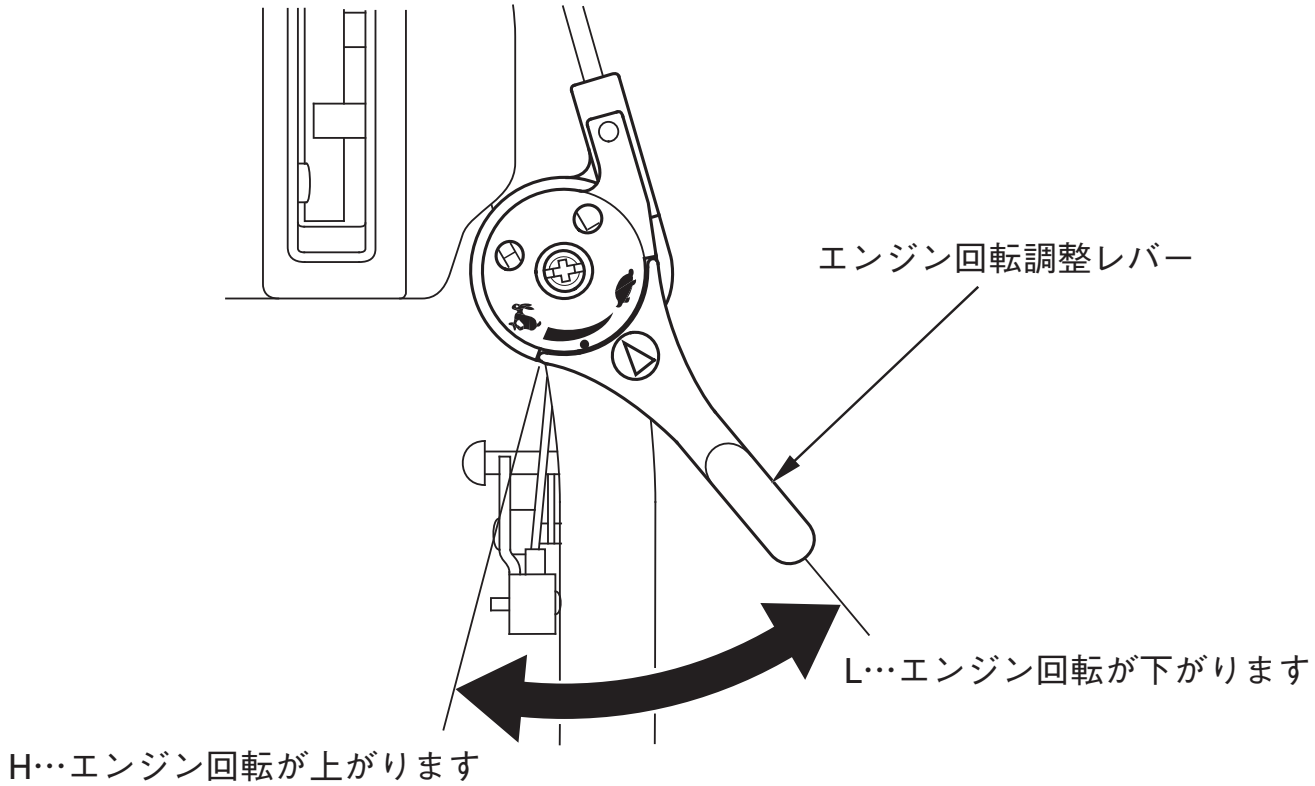
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. エンジンが始動します。
9. 2～3分間暖機運転を行います。チョークノブを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。



エンジン回転は、作業に応じて調整してください。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

●変速レバー

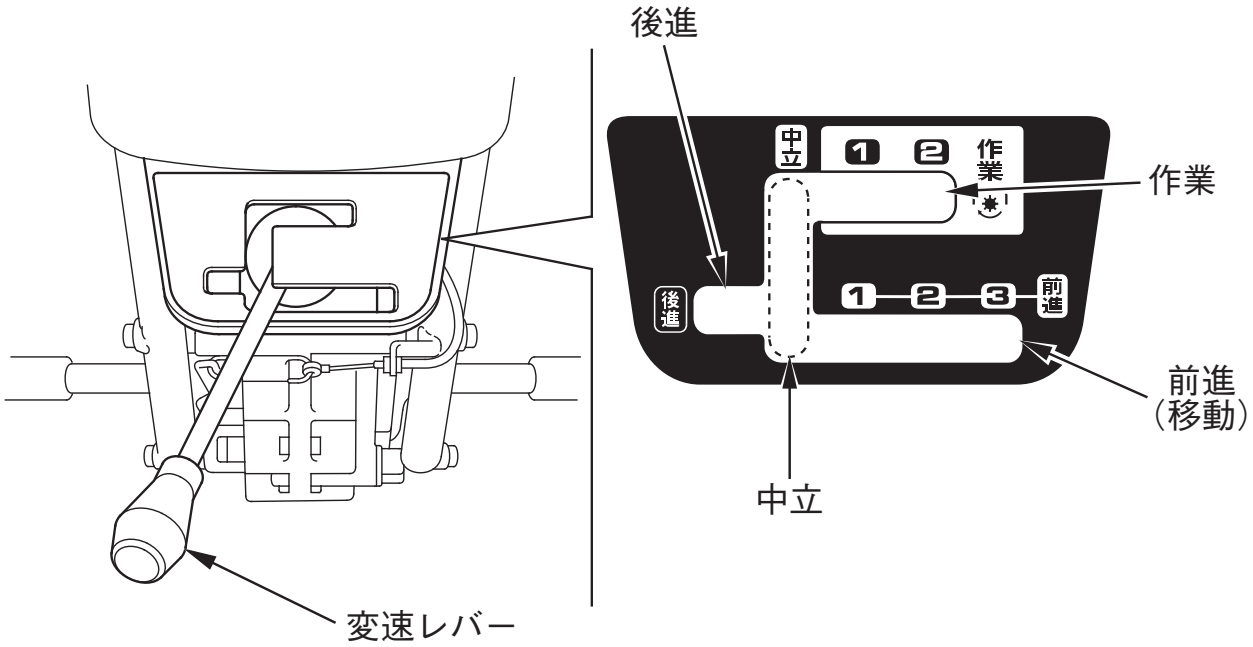
変速表の適応作業に合わせ変速位置を選びます。
速度が速すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上がり等に弊害が出ます。

●変速の要領

- 変速レバーは、必ず主クラッチレバーを放してから操作します。
- 変速レバーが作動しにくい時にはいったん主クラッチレバーをにぎった後、主クラッチレバーを放しもう一度操作します。
- 後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。

取扱いのポイント

- 後進するときは次の指示に従ってください。
  - ・後方に人や障害物がないことを確認してください。
  - ・エンジン回転を下げてください。
  - ・ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
  - ・主クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。
- 前進３速は車速が速いので、変速操作はエンジン回転数を下げた状態で主クラッチレバーをゆっくりつないでください。
  エンジン回転数が高い状態で主クラッチレバーを急につなぐと、本機が急発進します。
- 傾斜地では変速レバーを中立にしないでください。中立にすると駆動力が切れ、本機が思わぬ動きをすることがあります。



変速表（エンジン回転数3,000 rpm時）

変速位置		車速	ロータリ回転数	適応作業
前進	1	0.18 m/s	－	移動、トラックへの積込み、ほ場への出入
	2	0.31 m/s	－	
	3	1.00 m/s	－	移動
作業	1	0.18 m/s	141 rpm	耕うん、培土、中耕、除草
	2	0.31 m/s		
後進		0.33 m/s	－	移動、トラックからの積降ろし、ほ場への出入

• 車速は標準車輪使用時です。

運転

●主クラッチレバー

主クラッチレバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

主クラッチレバーの握りかたは、下図の３通りあります。作業内容や身長に合った適正な握りかたで操作してください。

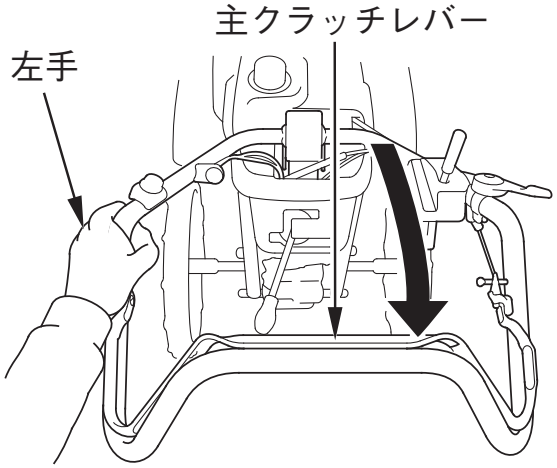
⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ずハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

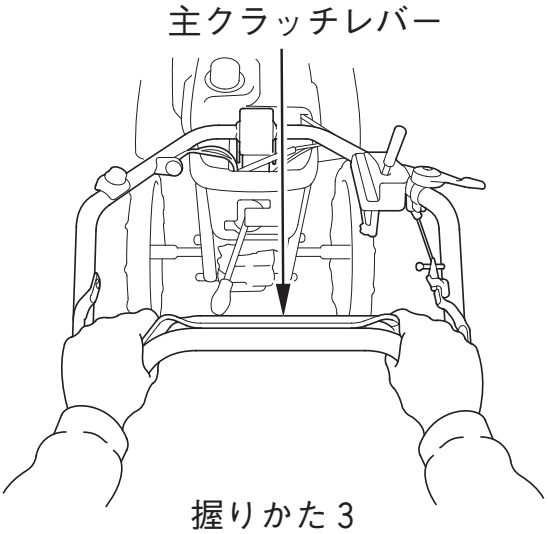
走行

主クラッチレバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。

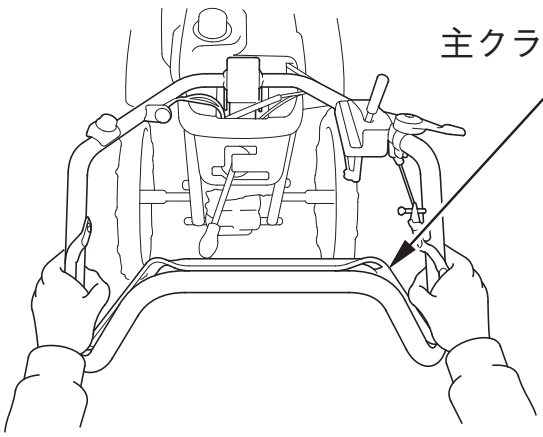
主クラッチレバーを握るとき



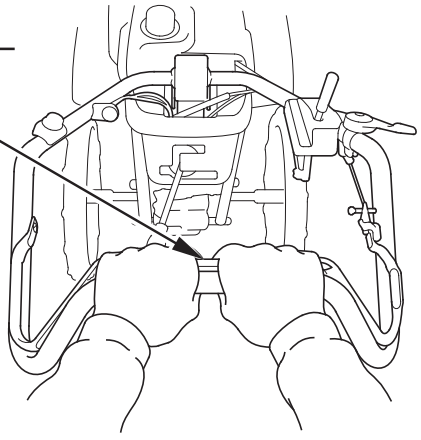
握りかた１



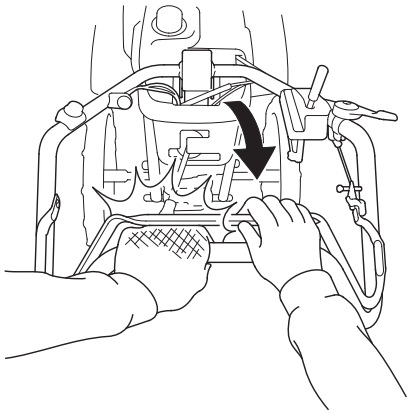
握りかた２



握りかた３



主クラッチレバーを操作するときは、
ハンドルと主クラッチレバーで手をは
さまないように注意してください。

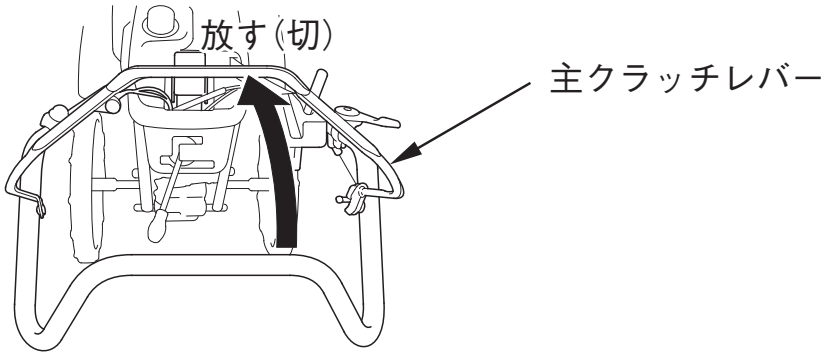


取扱いのポイント

急激な操作を行うと、本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

停止

主クラッチレバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。

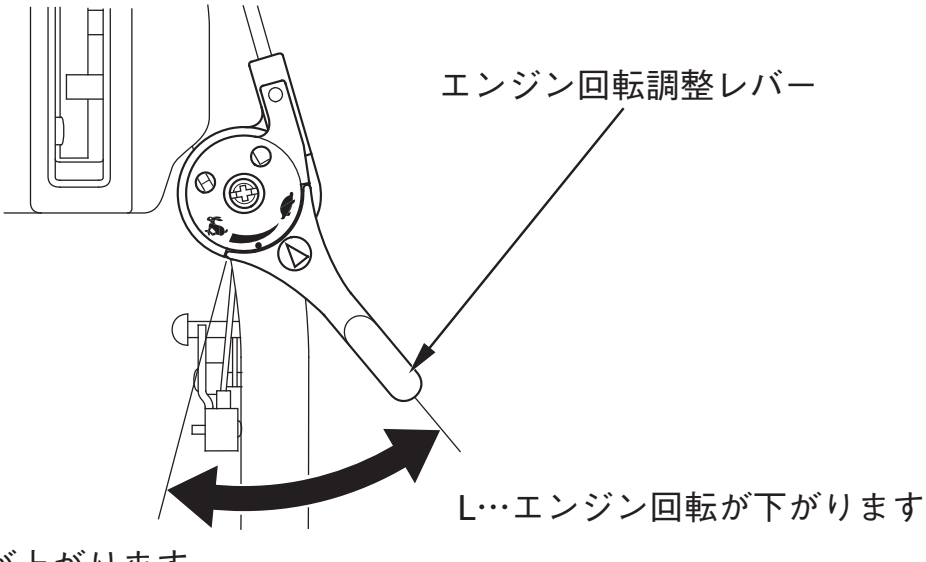


取扱いのポイント

主クラッチレバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。

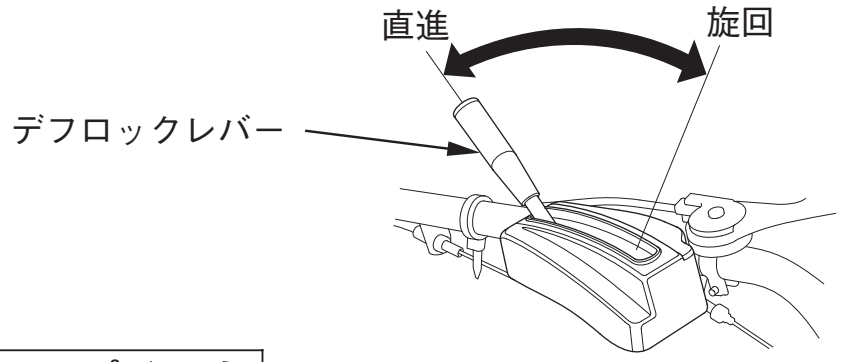
●エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて調整してください。



●デフロックレバー

通常は“旋回”の位置で使用してください。旋回性が向上します。
柔らかくて片輪スリップしやすい畑や、片輪だけが耕した所を通る場合に“直進”にします。直進性が向上します。
レバーの切替えは主クラッチレバーを“切”位置にし、本機が止った状態にしてから行ってください。



取扱いのポイント

- 移動時はデフロックレバーを“旋回”にしてください。
- 主クラッチレバーを握ったままでデフロックレバーを操作するとデフロック機構が損傷する場合があります。デフロックレバーは主クラッチレバーを“切”の位置にして操作してください。
- 坂道や傾斜地での走行はデフロックレバーを“直進”の位置で行ってください。

●旋回(移動時)

⚠警告

- 高速運転時に旋回すると本機が急旋回し、走行が不安定となり傷害事故をおこすおそれがあります。
- 上り坂や下り坂では旋回しないでください。坂道で旋回すると思わぬ方向に急旋回したりし、事故、けが、本機の故障をまねくおそれがあります。

デフロックレバーを“旋回”の位置でエンジン回転を下げゆっくり旋回してください。

耕うん作業

⚠注意

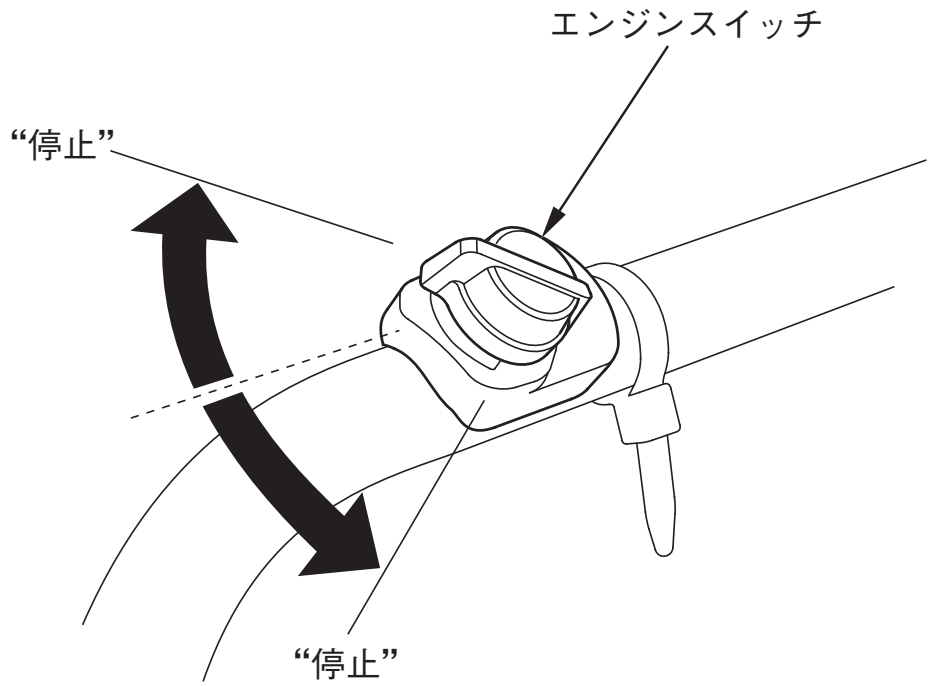
- 一度に深く耕すと本機が急に前に飛び出すことがあります。
- 耕うん中、爪に石などの固い物が当たったりするとハンドルが急に下がったり、本機が急に前へ飛び出すことがあるので注意してください。
- 本機後方中央に立ち、必ずハンドルを持ってください。
  バランスをくずし思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

- 硬いほ場での耕うんは、一度に深く耕うんしないで２～３回掛けしてください。無理にハンドルを押しつけないでください。
- 旋回するときは:
  主クラッチレバーを放しエンジン回転を低速にします。デフロックを使用している場合は**“旋回”**位置にしてください。変速レバーを**“前進1速”**にし主クラッチレバーを握りハンドルを押し下げ耕うん爪(ロータリ)が少し浮くようにしてゆっくり旋回してください。旋回が終了したら一度、主クラッチレバーを放し変速レバーを**“作業”**の位置にし、耕うん作業に戻ってください。
- 一度耕うんした後車輪の跡に、片側の後車輪を合わせて耕うん作業すると、起こし残しなく耕すことができます。

エンジンのとめかた

緊急停止の場合

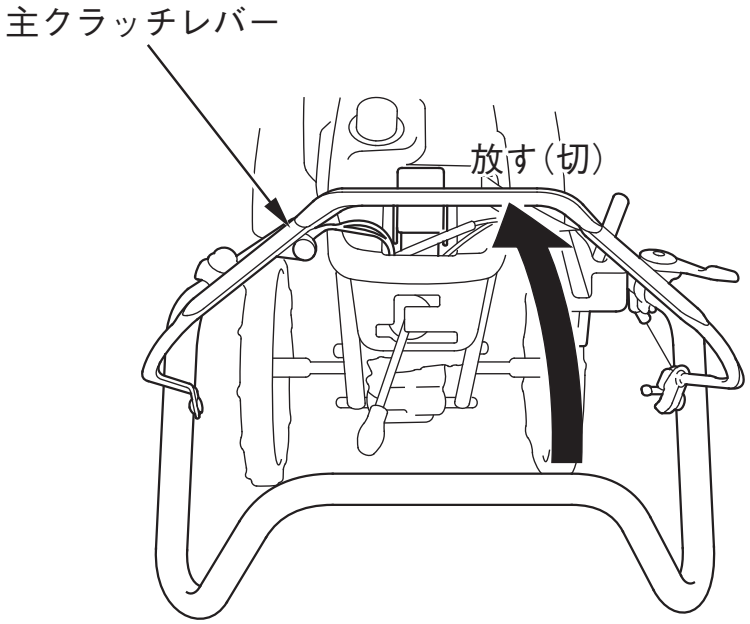
エンジンスイッチを**“停止”**に合わせます。



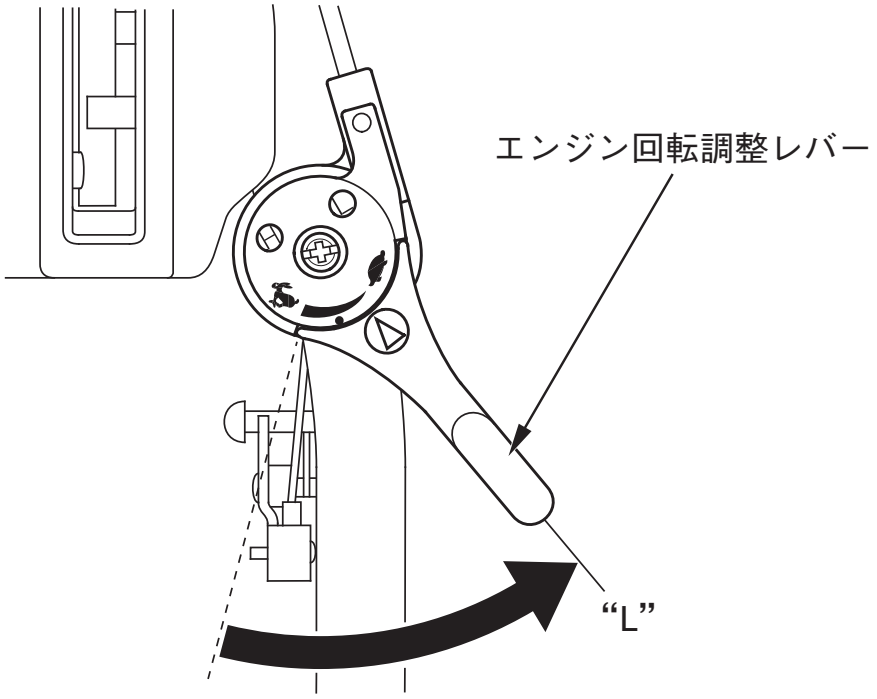
- エンジンスイッチを使って本機を緊急停止させた場合は、再び始動する前に変速レバーを**“中立”**の位置にしてください。

通常停止の方法

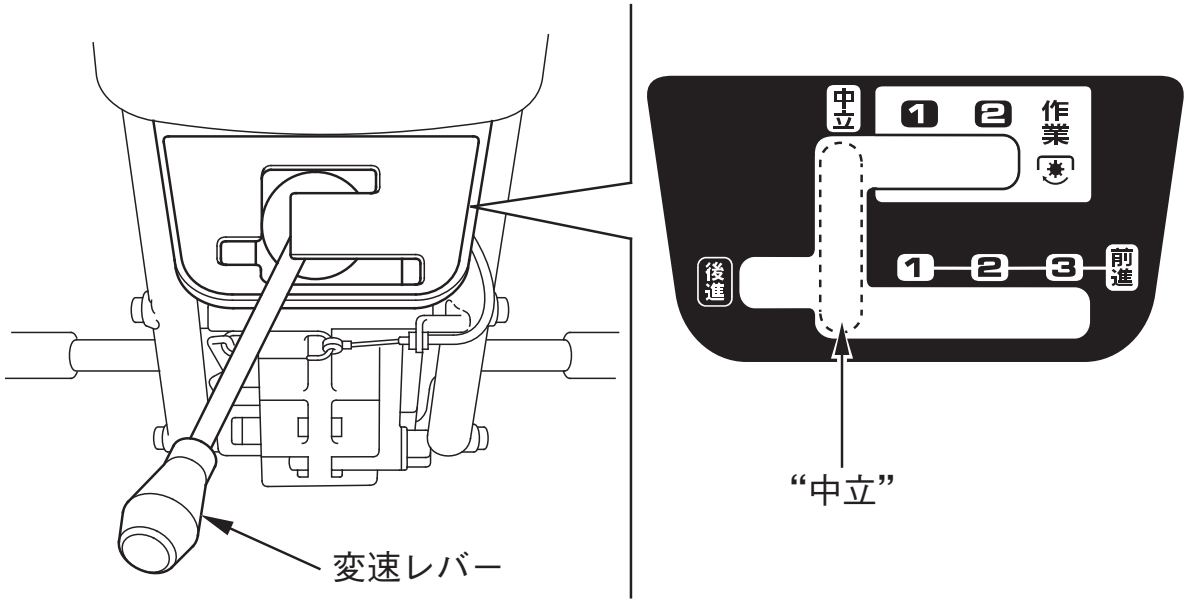
1. 主クラッチレバーを放して**“切”**にします。



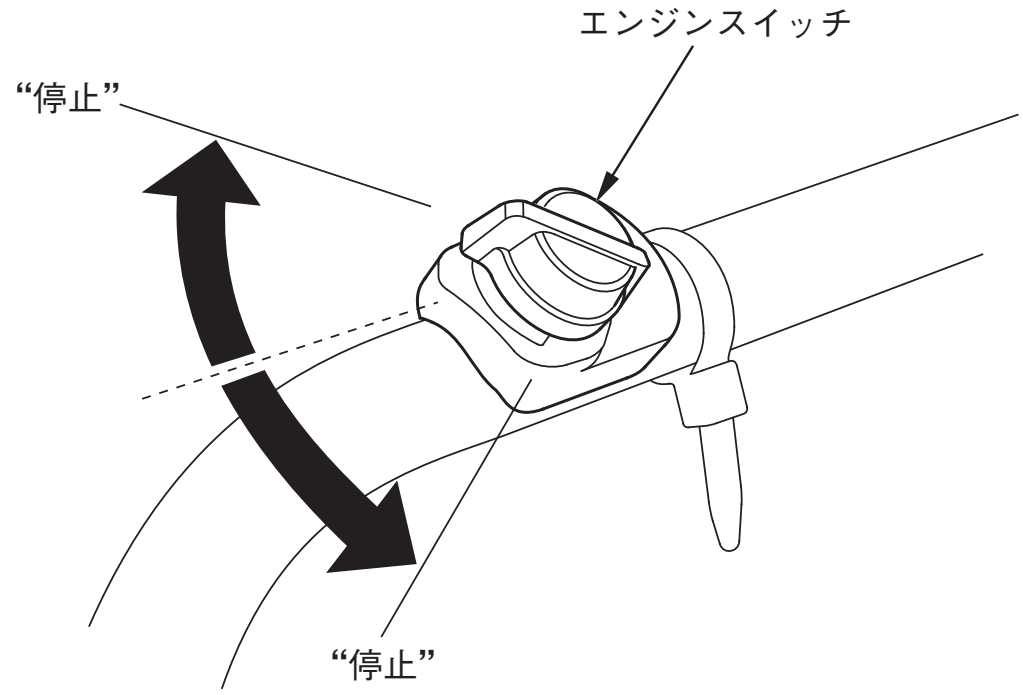
2. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



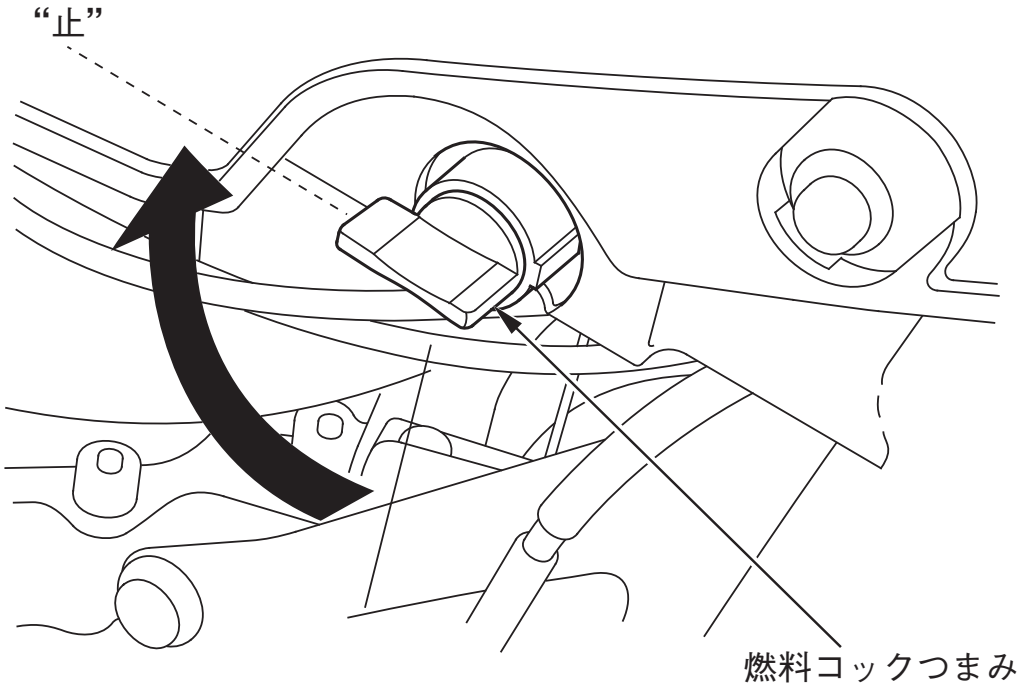
3. 変速レバーを“中立”の位置にします。



4. エンジンスイッチを**“停止”**に合わせます。



5. 燃料コックつまみを**“止”**にします。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行ないましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または250時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検、補給		○					22,23
	交換	○		○		○（4）		46
エアクリーナ	点検		○					24
	清掃				○（2）			49
	交換						○	49
本機のまわり	点検		○					19
レバー類の作動	点検		○					19
各部の締付け	点検		○					19
配線、ケーブル類	点検		○					19
エンジンの始動、停止	点検		○					19
変速機オイル	点検	○						51
クラッチケースオイル	点検	○						50
クラッチシュー	点検						○（3）	－
点火プラグ	点検、調整					○		52
	交換						○	52
エンジン回転調整ケーブル	点検、調整						○	54
主クラッチケーブル	調整			○		○		55
デフロックレバーケーブル	調整			○		○		56
吸入、排気弁のすき間	点検、調整						○（3）	－
燃焼室	清掃	250時間運転毎（3）（5）						－
燃料タンク（燃料フィルタ付）	清掃	○（3）					○（3）	－
燃料チューブ	点検	2年毎〈必要なら交換〉（3）						－

（1）点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（2）ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（3）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
（4）高負荷、高温で使用した場合、エンジンオイルは50時間運転毎に交換してください。
（5）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

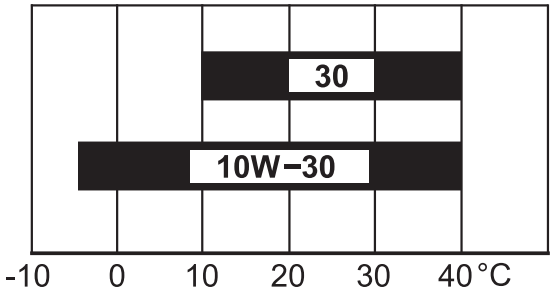
⚠警告
点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを取外して行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

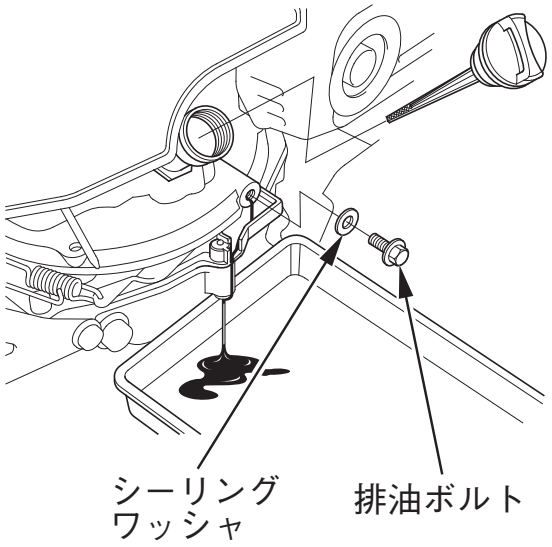
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



エンジンオイル量： 0.55 L

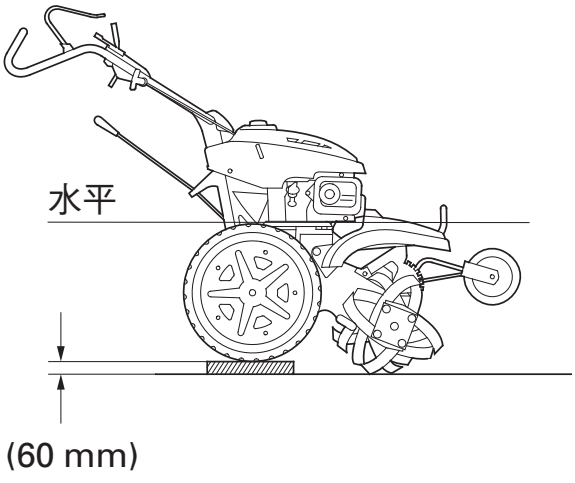
交換のしかた

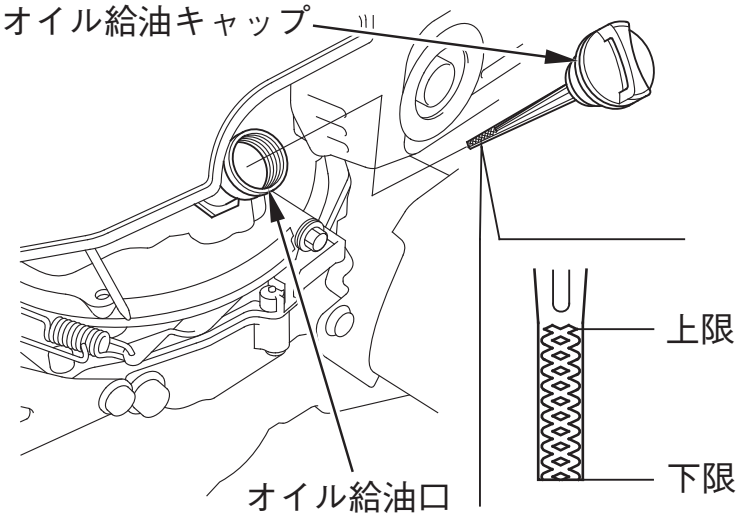
1. 平坦な場所で本機のエンジン締付け座面を水平(耕うん爪を接地させて後車輪を60 mm浮かせた状態)にしてオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜き、適切な容器に受けます。
2. 排油ボルトを洗い油できれいに洗い、新品のシーリングワッシャを使用し、確実に締付けます。



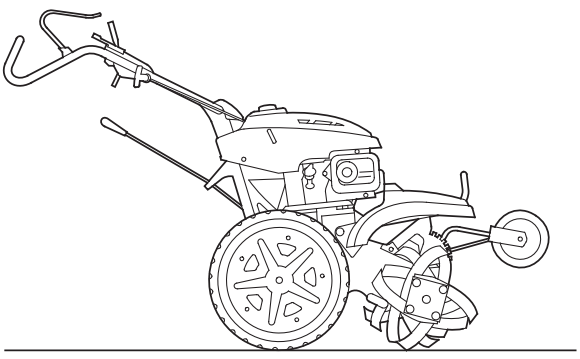
3. 平坦な場所で本機のエンジン締付け座面を水平(耕うん爪を接地させて後車輪を60 mm浮かせた状態)にして新しいエンジンオイルをオイル給油キャップのゲージ部で確認しながら上限以内まで注入します。

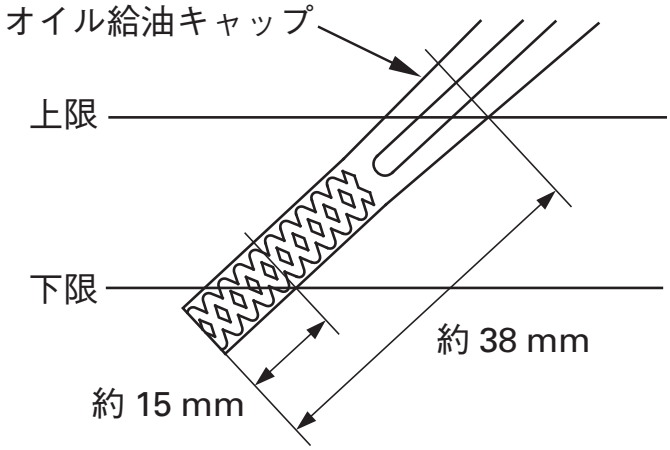
[水平状態の場合]





[後車輪接地状態の場合]





4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

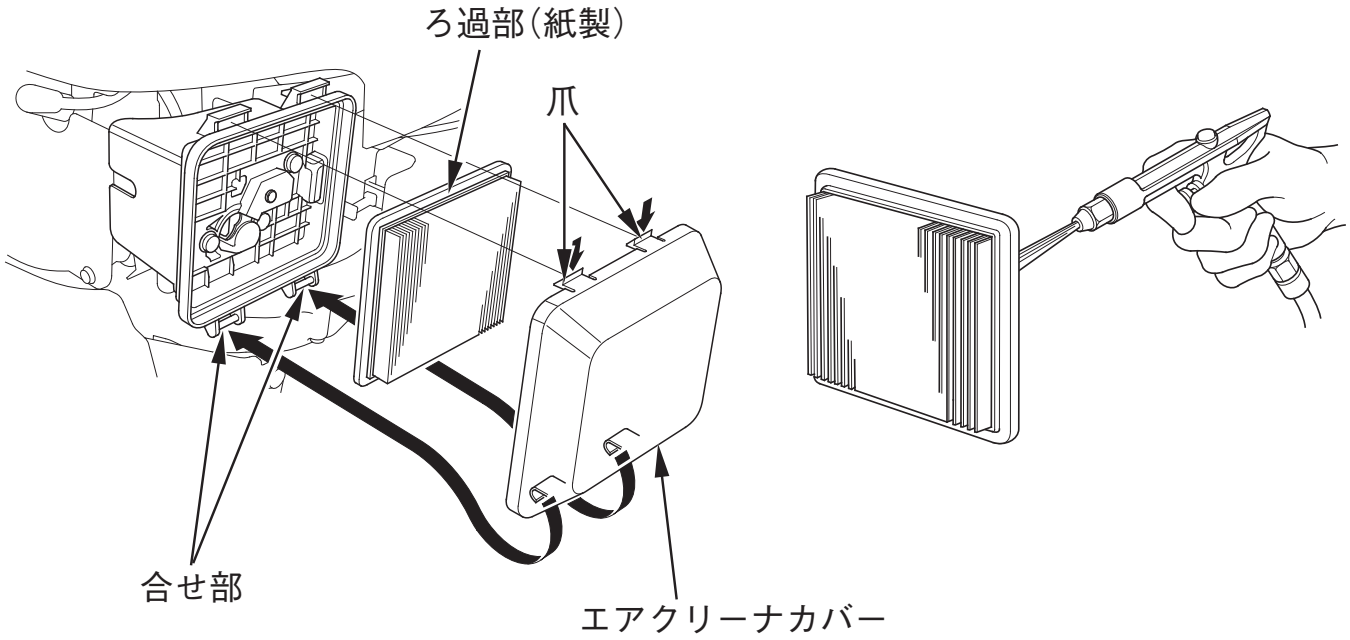
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ず平坦な場所で本機のエンジン締付け座面を水平(耕うん爪を接地させて後車輪を60 mm浮かせた状態)または、耕うん爪(ロータリ)と後車輪が接地した状態にして、オイルを給油してください。
- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エアクリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エアクリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

清掃のしかた

1. エアクリーナカバーを取外し、ろ過部を取外します。
   エアクリーナカバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。
2. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。
   汚れがひどい場合は交換してください。



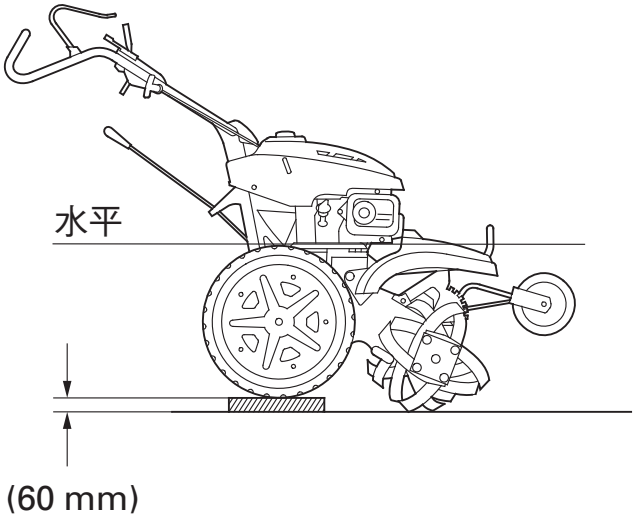
取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

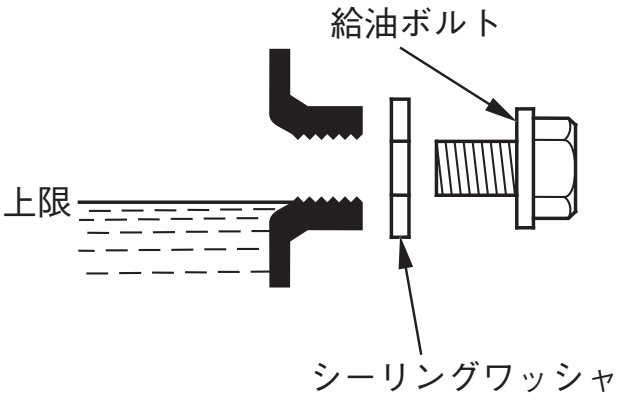
クラッチケースオイルの点検

点検

平坦な場所でエンジン締付け座面を水平(耕うん爪を接地させて後車輪を60 mm浮かせた状態)にして給油ボルトを外し、給油ボルト穴の口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。汚れがひどい場合は、お買いあげ販売店にて交換してください。







補給

指定オイル： Honda純正ウルトラLEO(SAE 0W-20)
またはAPI分類SE級相当のSAE 0W-20オイルをご使用ください。

- 給油ボルトを外し、新しいオイルを給油ボルト穴の口元まで補給します。
- 補給後、シーリングワッシャと給油ボルトを確実に取付けてください。

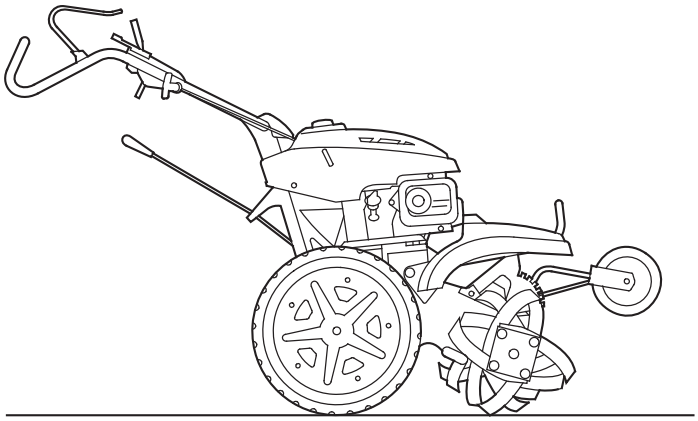
取扱いのポイント

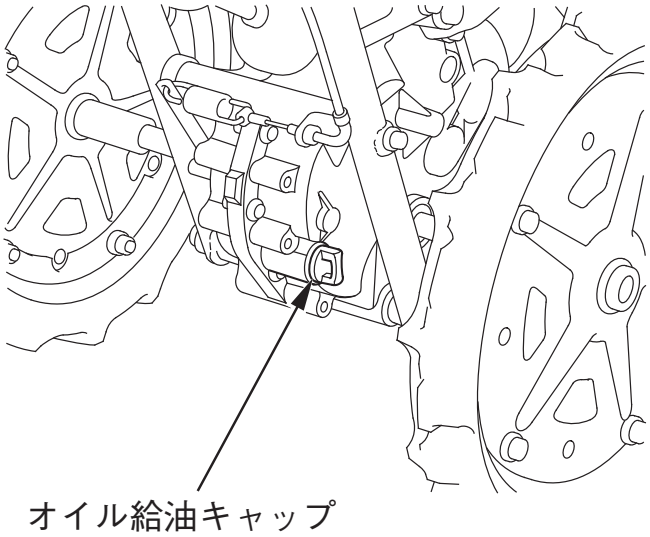
給油ボルトは確実に取付けてください。取付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

変速機オイルの点検

点検

平坦な場所で本機を耕うん爪(ロータリ)と後車輪が接地した状態にしてオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。汚れがひどい場合は、お買いあげ販売店にて交換してください。

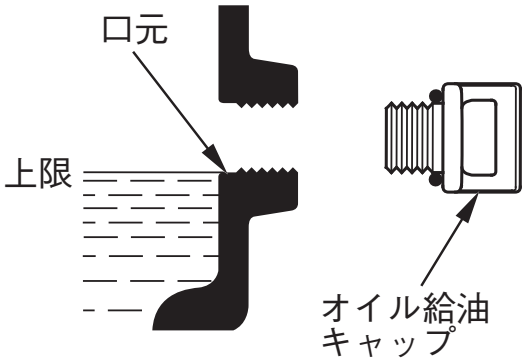




補給

指定オイル：　Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

- オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは確実に締付けてください。



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

点火プラグの点検･調整･交換

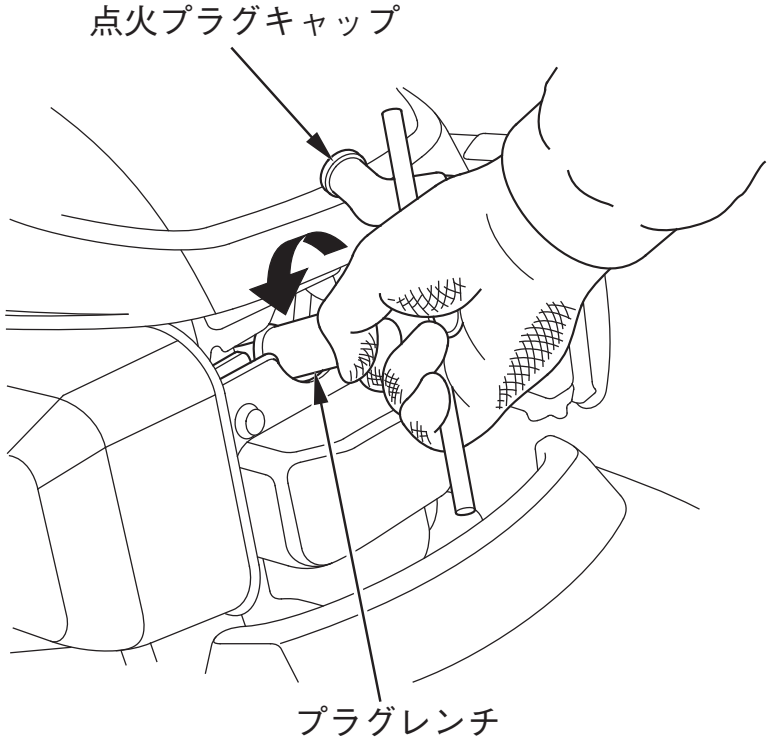
電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

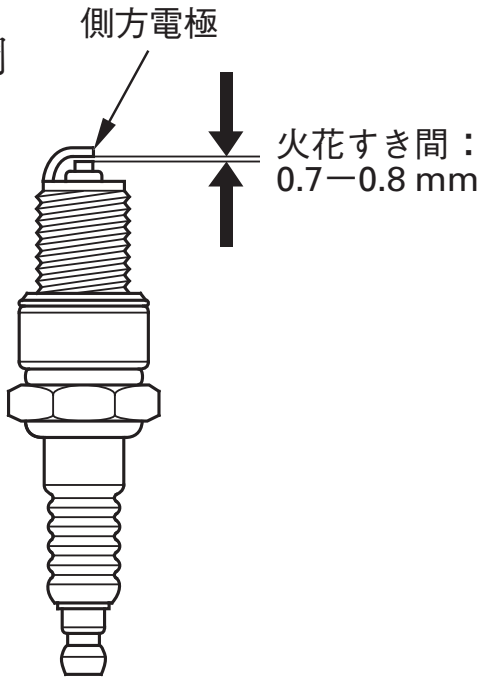
点検･清掃のしかた

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを取外します。
2. プラグレンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを点検･清掃します。
   点火プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。



調整のしかた

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7－0.8 mm



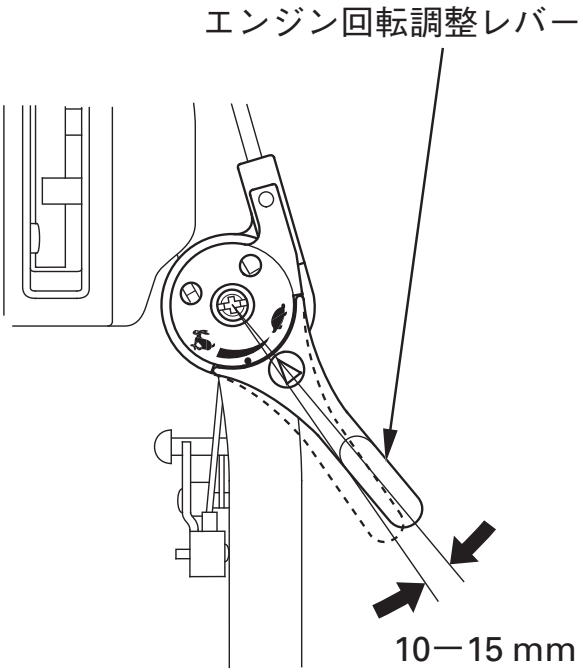
《標準プラグ》
   BPR5ES (NGK)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・清掃・調整・交換後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

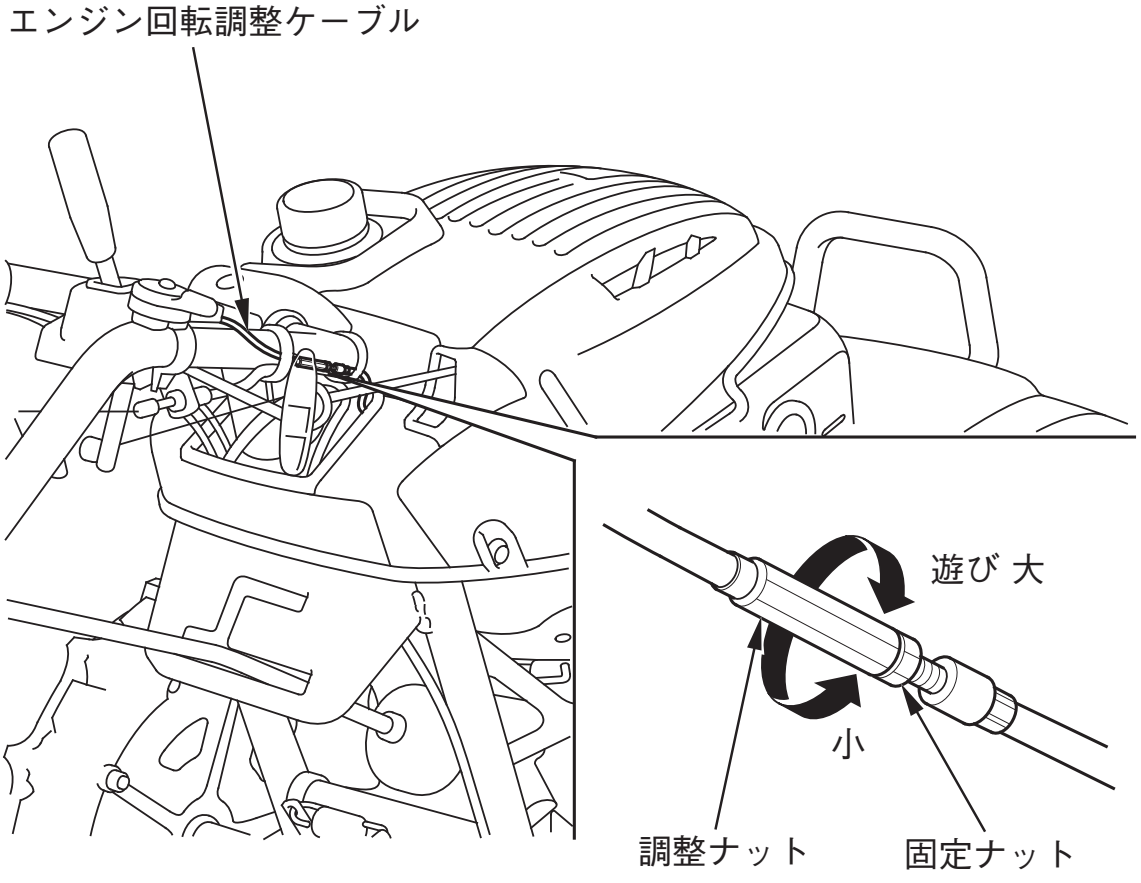
エンジン回転調整ケーブルの点検･調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。



調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを“L”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：10－15 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

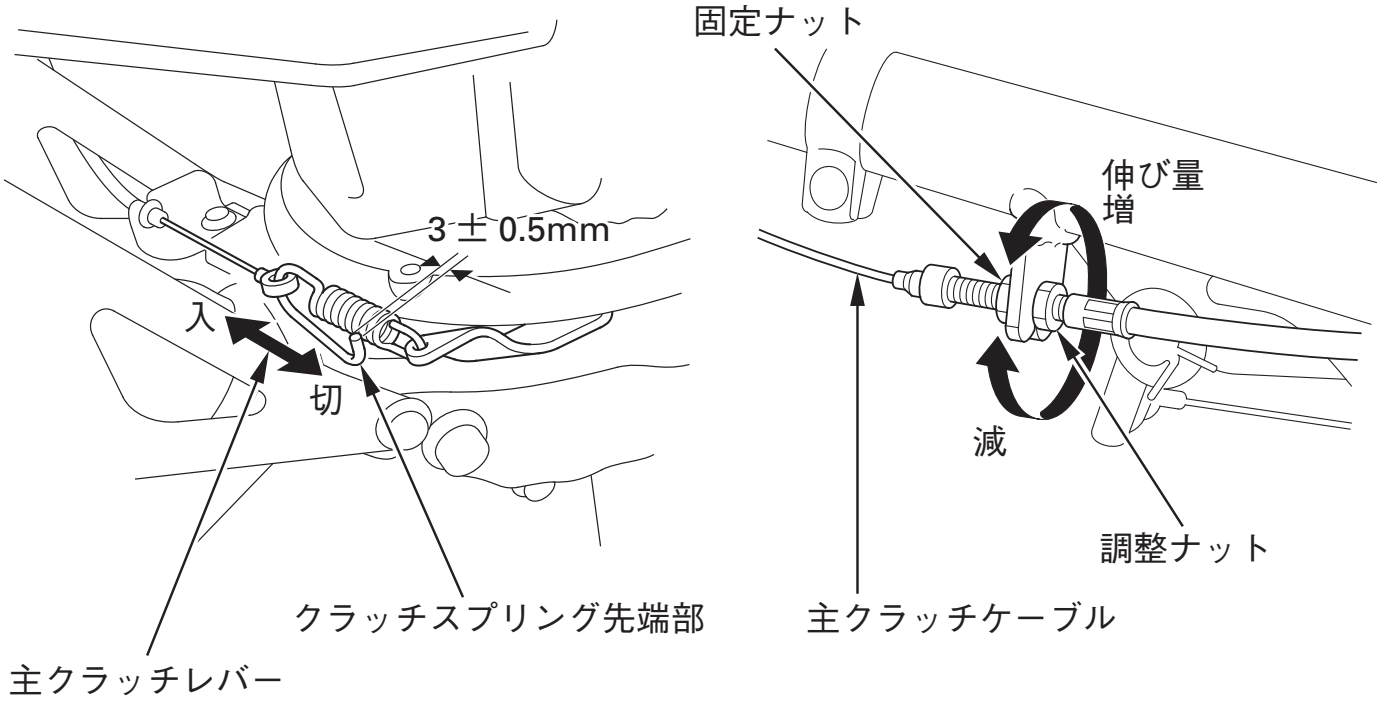


主クラッチケーブルの調整

主クラッチケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったりクラッチがすべったりします。

調整のしかた

1. 主クラッチレバーを“切”の位置から“入”の位置にしたとき、クラッチスプリングの伸び量が下記寸法になるように調整します。
   伸び量のめやすはクラッチスプリング先端部がクラッチスプリングひと巻き分移動する程度です。
   伸び量：3 ± 0.5 mm
   調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。



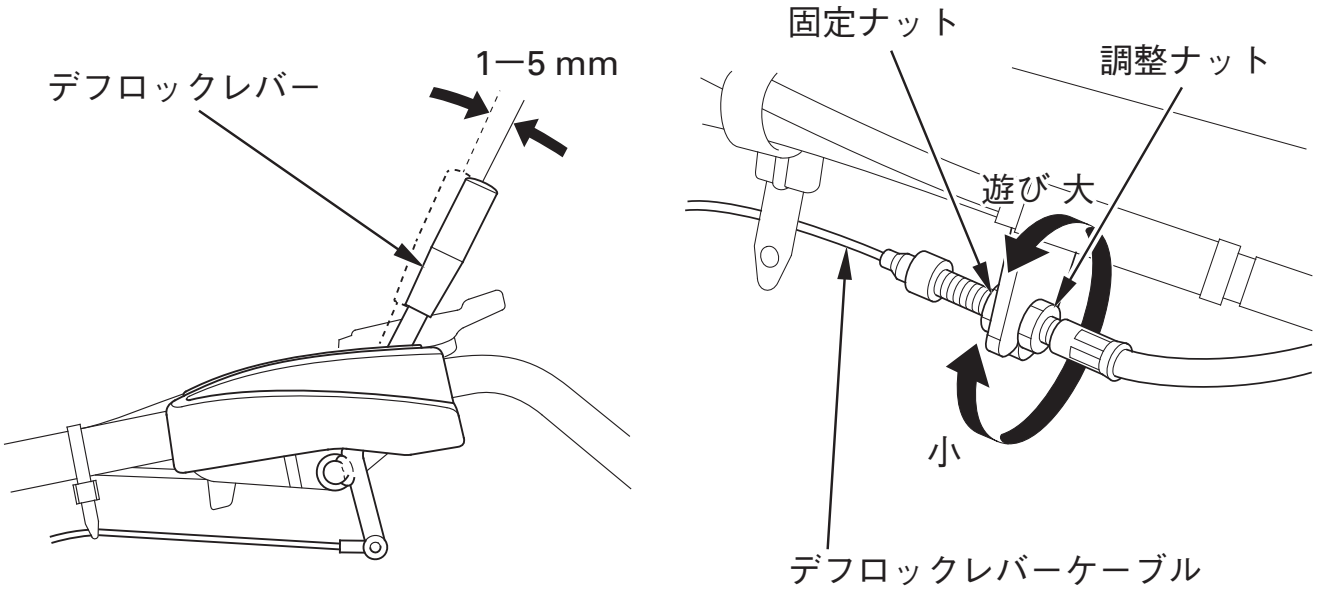
2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

デフロックレバーケーブルの調整

デフロックレバーケーブルの調整が完全でないと、デフの切替えができなくなることがあります。

調整のしかた

1. デフロックレバーを**“旋回”**にしてレバーの遊びが、先端で下記寸法になるように調整します。
   遊び：1—5 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行います。

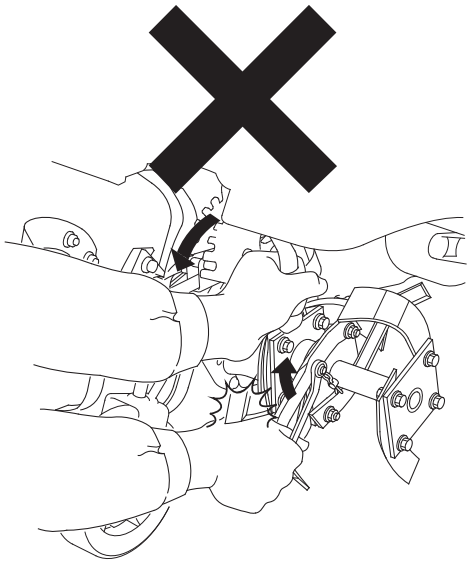


3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

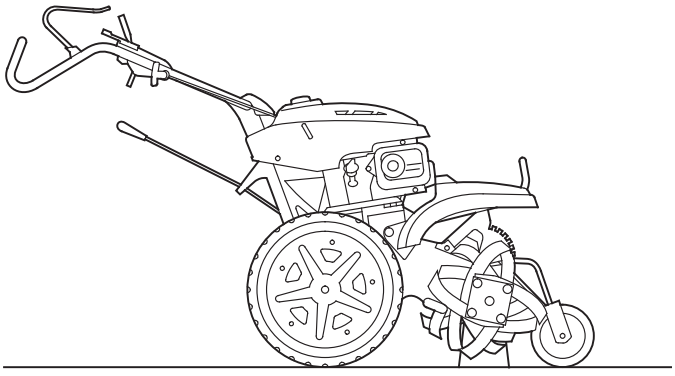
耕うん爪(ロータリ)の点検・交換

⚠注意

- 点検、交換は平坦な場所でエンジンを止め、点火プラグキャップを外してから行ってください。
- 手にケガをしないよう厚手の手袋を着用してください。
- 万一の落下にそなえて、耕うん爪軸の下に木の台などを置いてください。
- この耕うん爪は、内側と外側の爪が逆回転します。耕うん爪の点検や交換をする場合は爪の動きに十分注意してください。耕うん爪が思わぬ方向に回転しケガをするおそれがあります。
- 耕うん爪の配列や向きを変えると、本機が後方や思わぬ方向に進行し、ケガをするおそれがあります。



- 点検、交換の前に前車輪を運搬･移動の位置にし、耕うん爪(ロータリ)軸の下に台を置くなどして本機を固定します。



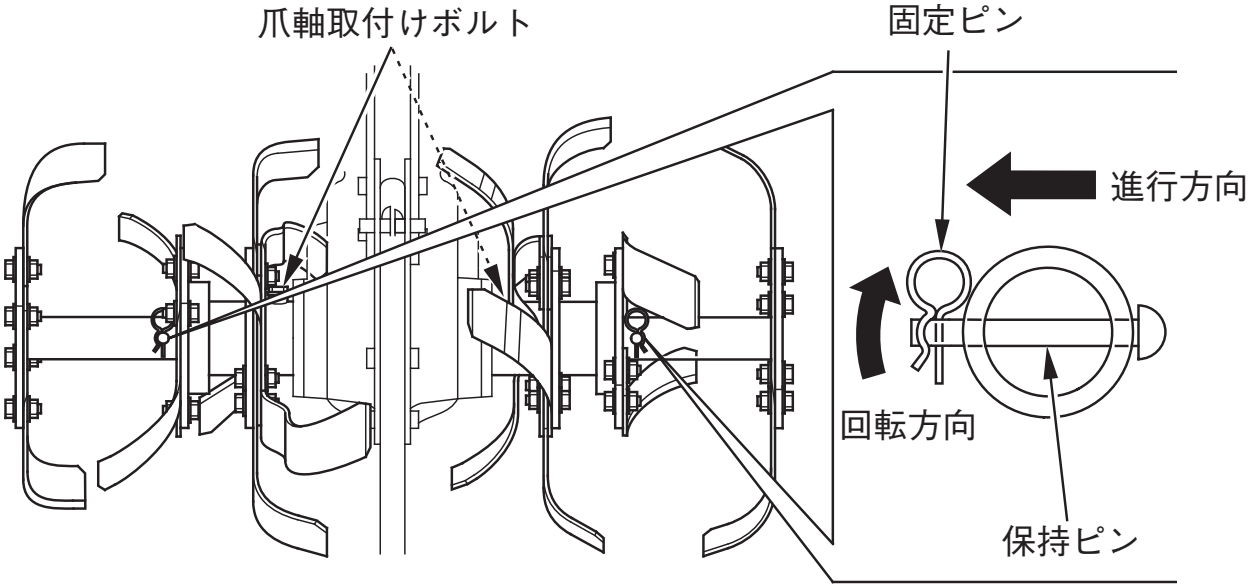
点検のしかた

1. 耕うん爪(ロータリ)の損傷、曲がり、ガタがないか点検してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。
2. 耕うん爪軸の保持ピン、固定ピンに脱落、変形がないか点検してください。必要であれば新しいピンと交換してください。

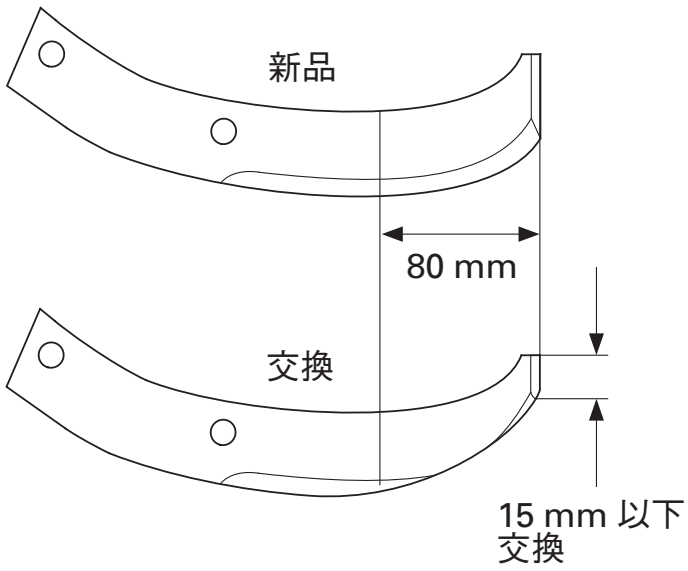
取扱いのポイント

- 耕うん爪はHonda純正部品を使用してください。
- ピン抜け防止のためロータリ回転方向と逆方向から固定ピンを差し込んでください。

進行方向正面より見た図

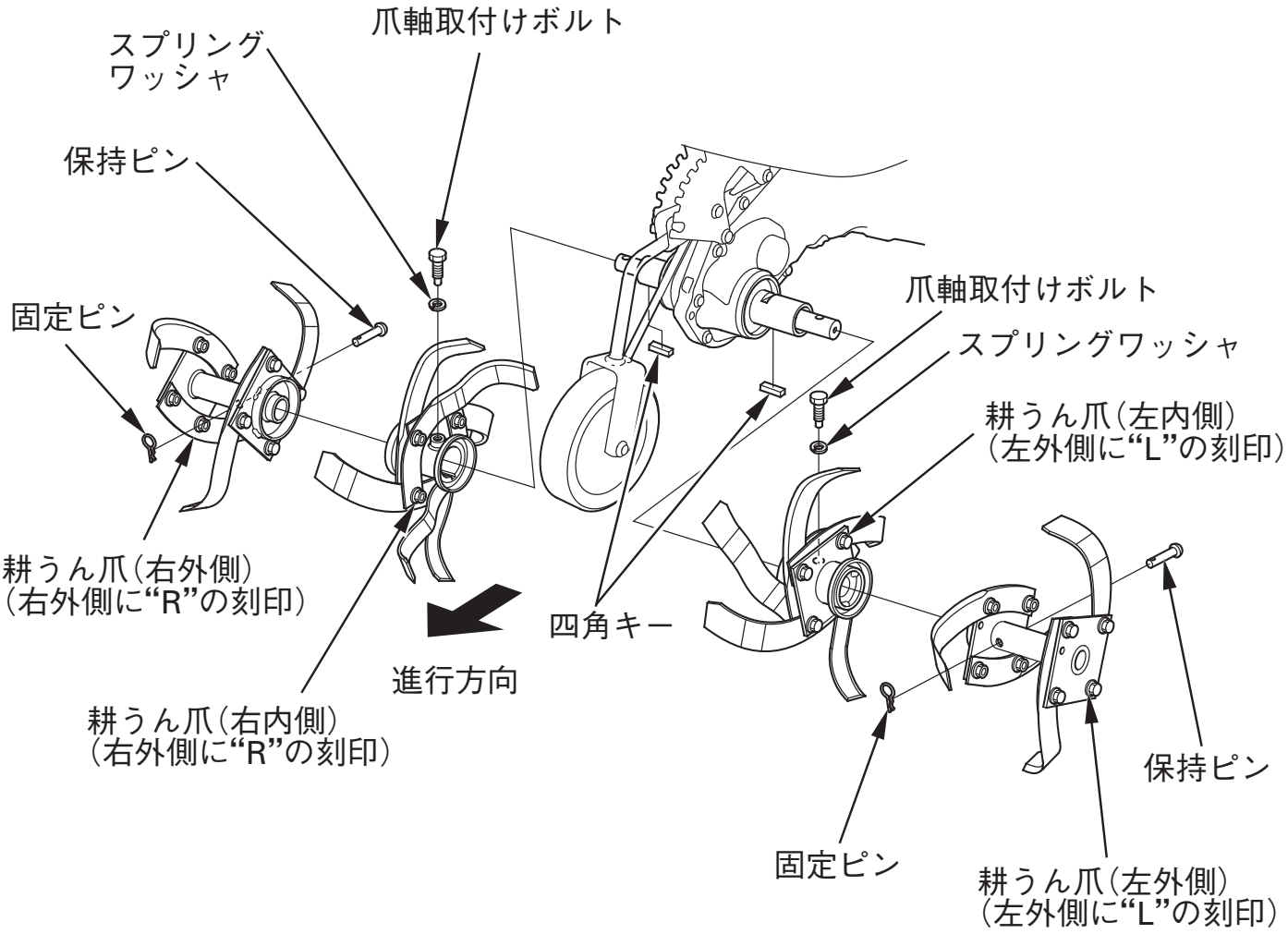


3. 耕うん爪先端から80 mmの範囲内で、耕うん爪巾が摩耗により15 mm以下になったら、耕うん爪を交換してください。
   - 効率の良い耕うん作業の為に、耕うん爪は早めにお取替えください。



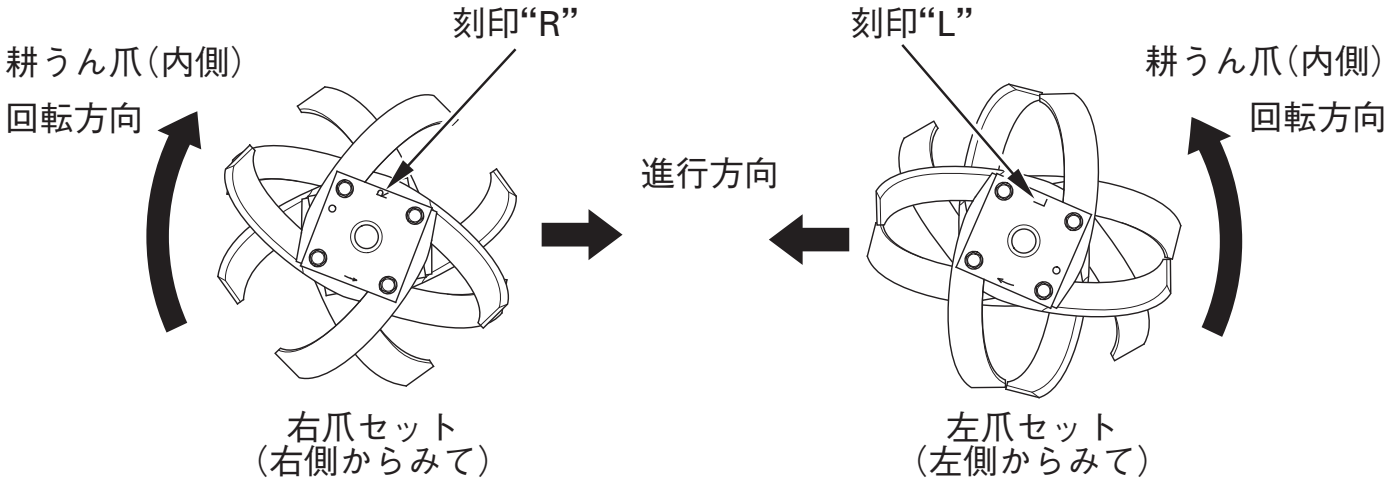
交換のしかた

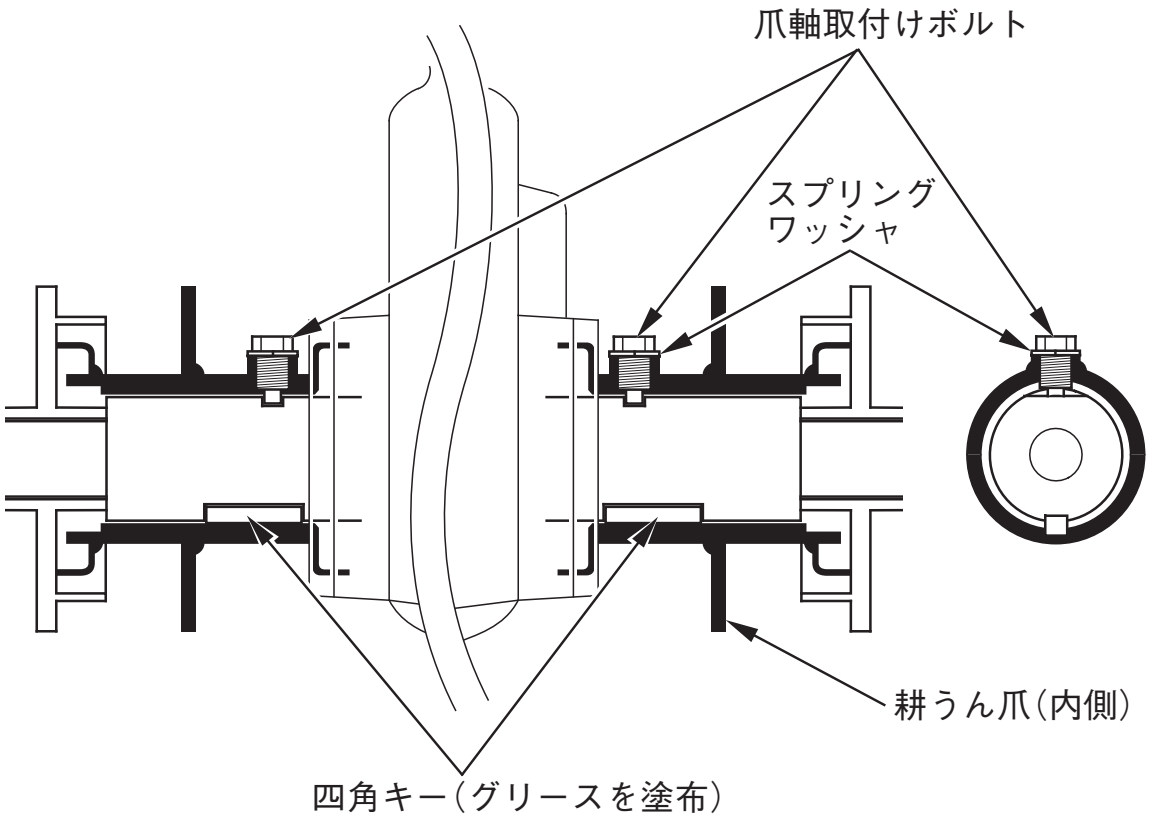
1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。
2. 外側の固定ピン、保持ピンを外し、外側の耕うん爪(ロータリ)を外します。
3. 爪軸取付けボルト、スプリングワッシャを外し、内側の耕うん爪(ロータリ)を外します。シャフトの四角キーをなくさないようにしてください。

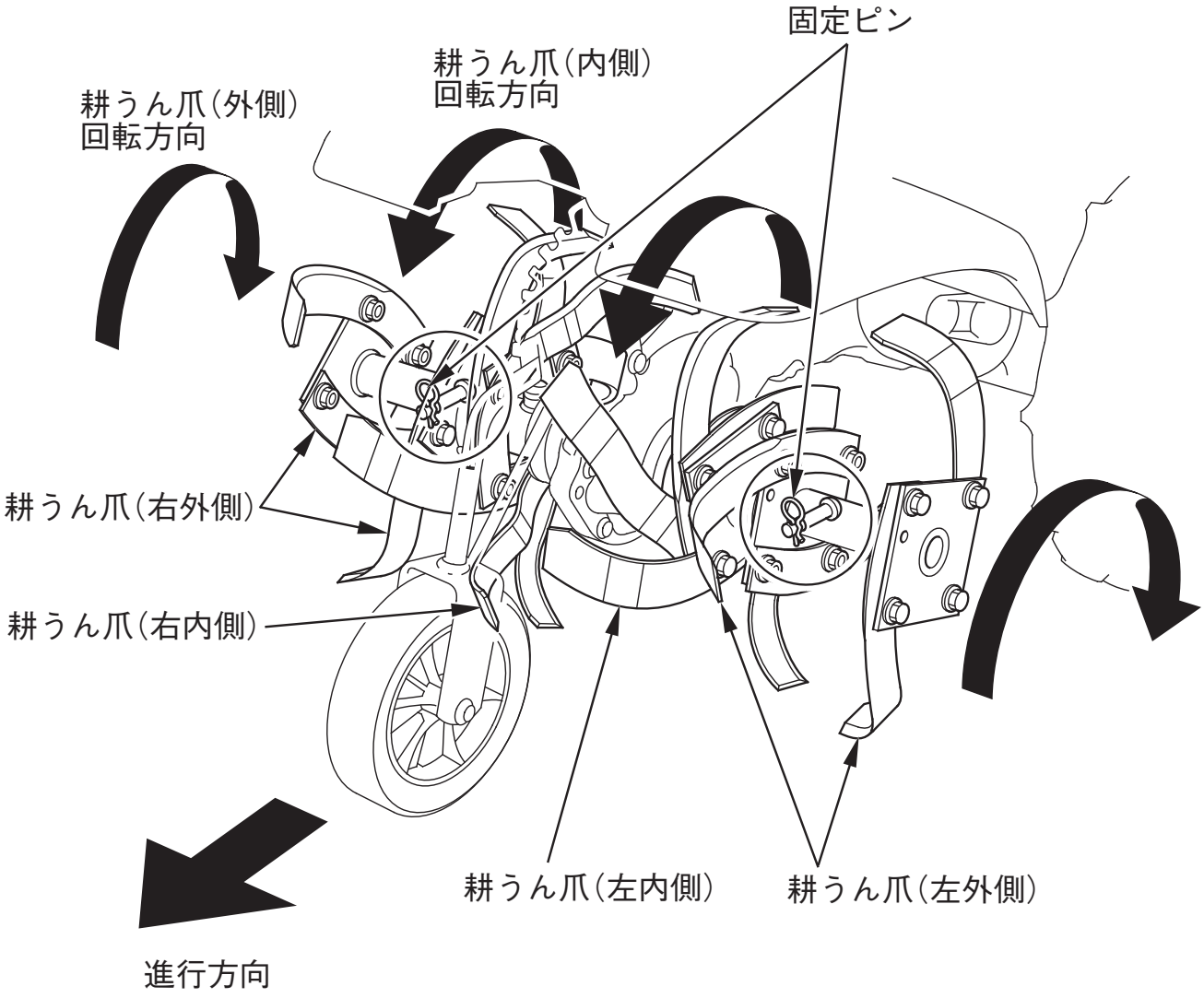


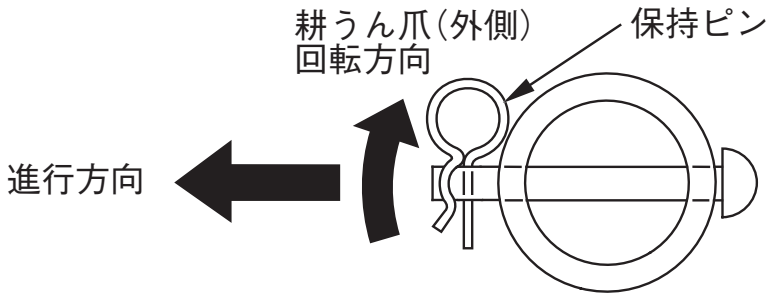
4. シャフトのキー溝に四角キー(グリースを塗布)を入れ、キー溝を合わせて耕うん爪(内側)を取付けます。
   スプリングワッシャ、爪軸取付けボルトで確実に取付けます。
5. 耕うん爪(外側)を取付け、保持ピン、固定ピンを取付けます。

- 耕うん爪の取付け、配列は62頁を参照してください。
- 耕うん爪にはそれぞれ“R”と“L”の刻印が打ってあります。進行方向に向かって右側には“R”、左側には“L”をそれぞれ外側から刻印が見えるように取付けます。
- 固定ピンは回転方向と逆方向から差し込んでください。





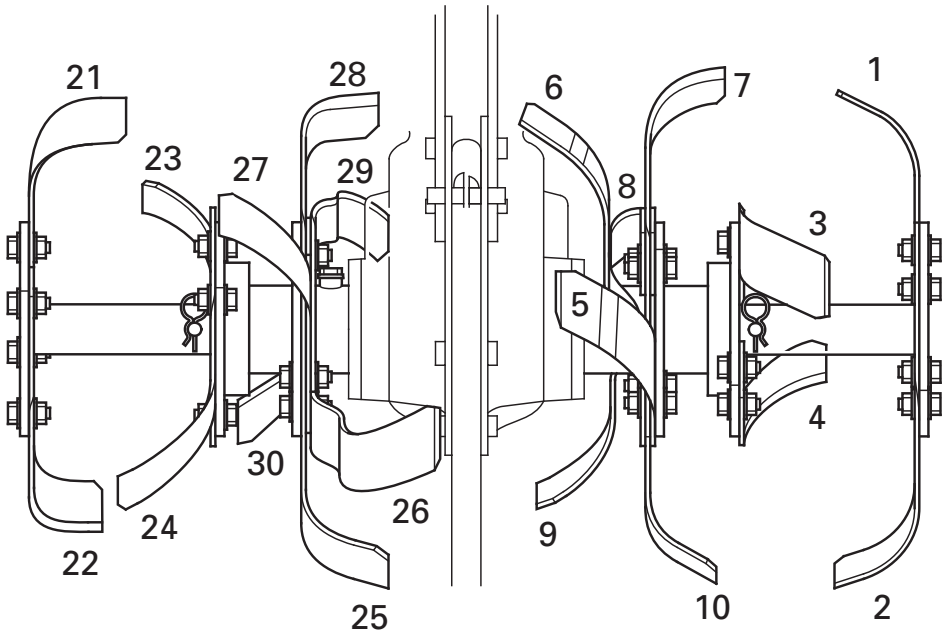

固定ピン
耕うん爪(内側)
回転方向
耕うん爪(外側)
回転方向
耕うん爪(右外側)
耕うん爪(右内側)
耕うん爪(左内側)
耕うん爪(左外側)
進行方向


耕うん爪(外側)
回転方向
保持ピン
進行方向

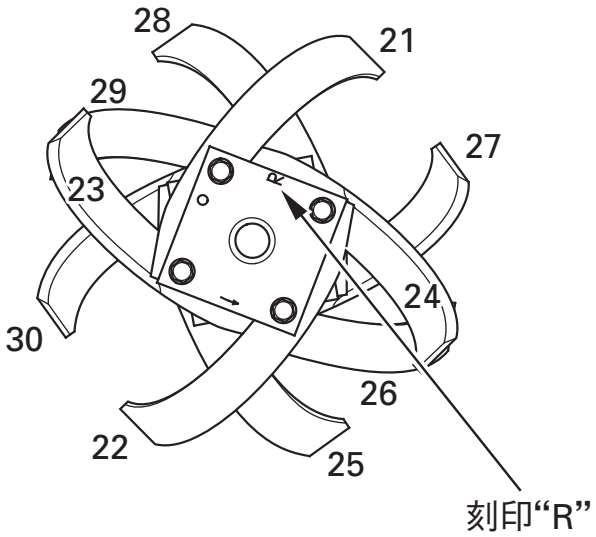
ロータリ爪の取付け

- ロータリ爪の配列は、下記のようにしてください。配列を変えたり向きを変えると振動の原因となり正常な耕うんができなくなります。
- 進行方向に向かって右側　21、22、25、26、28、29、左側　1、2、5、6、8、9は内向きに取付け、右側　23、24、27、30、左側　3、4、7、10は外向きに取付けます。

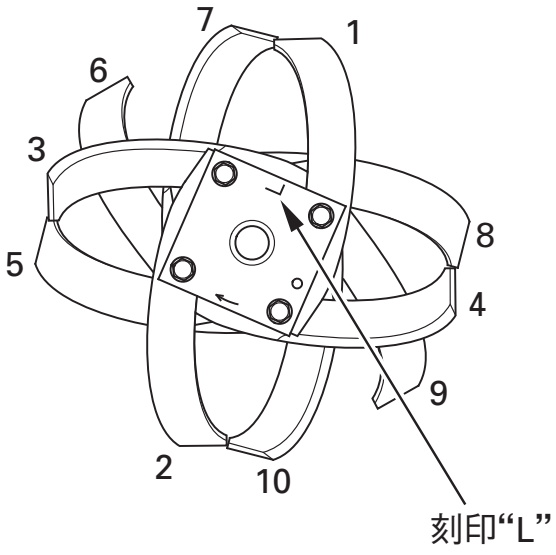
進行方向正面より見た図



右爪セット
（右横から見て）

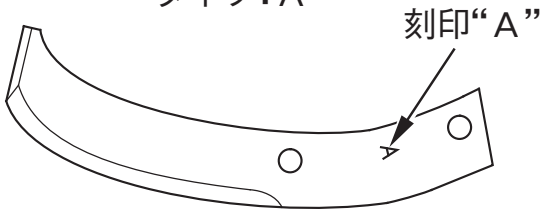


左爪セット
（左横から見て）



外側ロータリの爪形状

タイプ：A



（23, 24, 1, 2）

タイプ：B



（21, 22, 3, 4）

内側ロータリの爪形状

タイプ：A



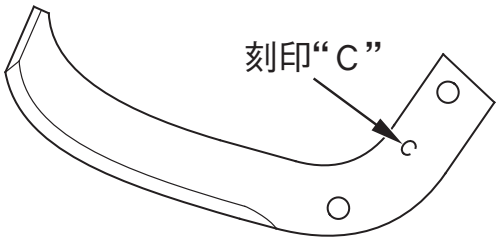
（25, 28, 7, 10）

タイプ：B



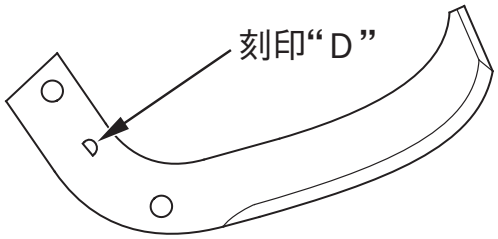
（27, 30, 5, 8）

タイプ：C



（26, 29）

タイプ：D



（6, 9）

使用後の手入れ

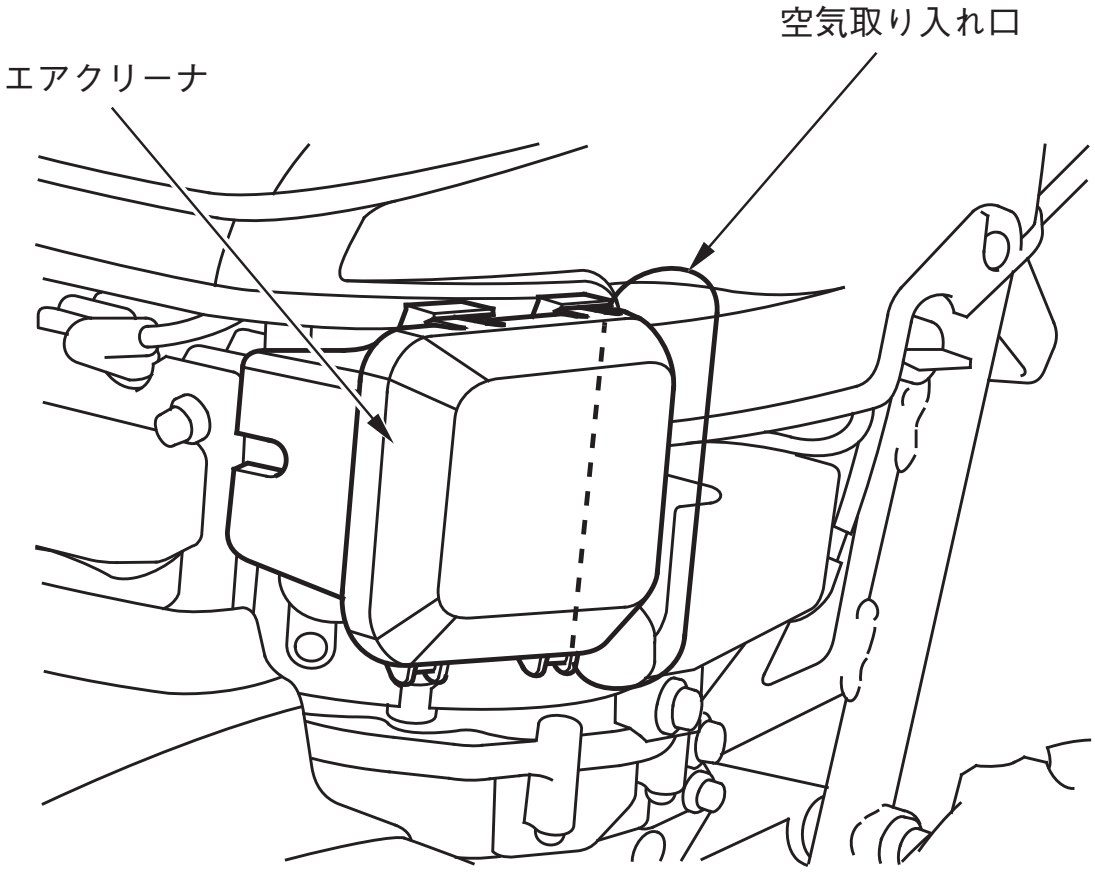
⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. 本体や耕うん爪(ロータリ)部分についた土、わら、草や汚れなどを落としてください。
2. エアクリーナについた土やほこりを落としてください。

取扱いのポイント

洗車する場合はエアクリーナの空気取入れ口や電装部品、エンジン周りに水がかからないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。



長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

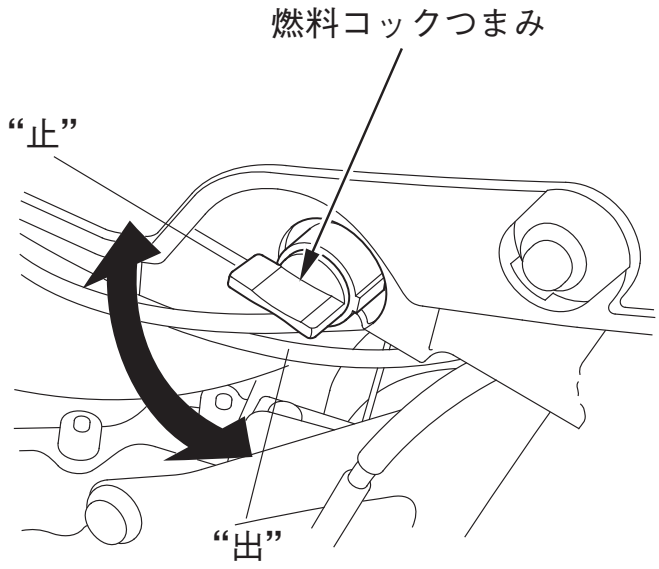
⚠注意

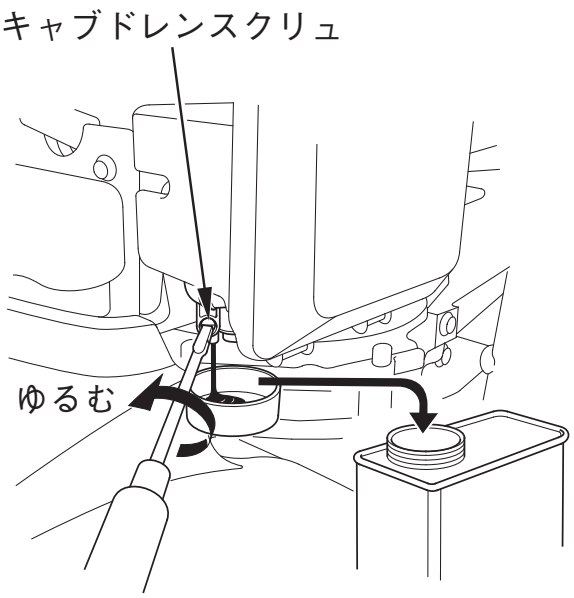
- 手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を置き(耕うん爪(ロータリ)と後車輪が接地した状態)、エンジンを停止してください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外して行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてから手入れを行ってください。やけどをするおそれがあります。

1.本機各部の清掃を行います。
2.燃料タンク、キャブレータ内の燃料を下記の要領で抜きます。

抜きかた

1) 燃料コックつまみを“出”にします。
2) キャブドレンスクリュを㊀ドライバ等でゆるめ、キャブレータと燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は一度、適切な容器に受け、燃料用の容器に入れてください。
3) 完全に燃料が抜けたらキャブドレンスクリュを確実にしめます。
4) 燃料コックつまみを“止”にします。

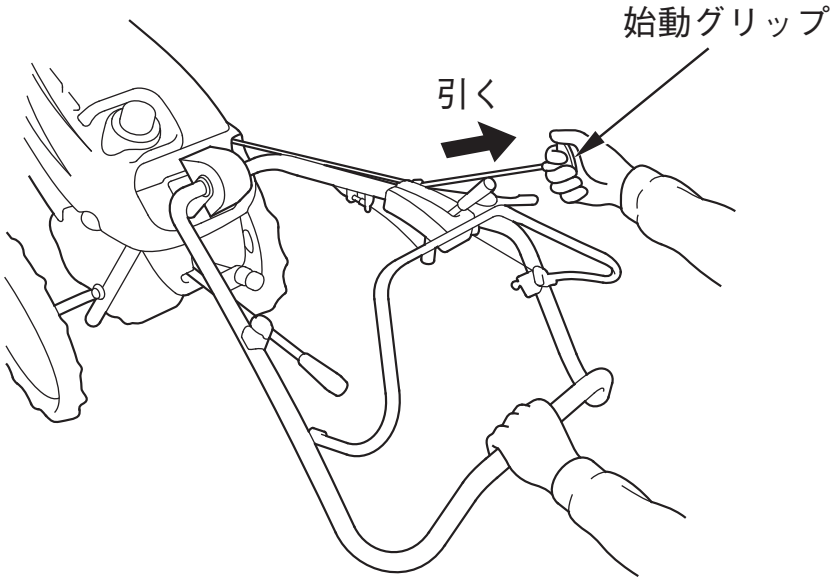




取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

3. エンジンオイルを交換します。(交換方法は 46 頁参照)
4. エアクリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は49頁参照)
5. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)



6. 主クラッチレバーを**“切”**にします。
7. チョークノブを**“始動”**の位置にします。
8. シートなどをかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管してください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

エンジンがかからないとき				参照頁
①始動方法	⇨	取扱説明書の手順で行う	⇨	31～35
②燃料量	⇨	燃料を補給する	⇨	20、21
③ガソリン(古いガソリン)	⇨	新しいガソリンに交換	⇨	65、66
④使用燃料	⇨	無鉛レギュラーガソリンを使用	⇨	21
⑤エンジンオイル量	⇨	規定量にする	⇨	22、23
⑥エアクリーナのろ過部	⇨	汚れている場合、清掃(交換)	⇨	49
⑦点火プラグキャップ	⇨	点火プラグに取付ける	⇨	52
⑧点火プラグ	⇨	濡れている場合、乾かす	⇨	52、53

エンジンはかかるが、すぐ止まるとき				
①チョークノブ	⇨	“運転”にする	⇨	16
②燃料コックつまみ	⇨	“出”にする	⇨	16
③燃料量	⇨	燃料を補給する	⇨	20、21
④エアクリーナのろ過部	⇨	汚れている場合、清掃(交換)	⇨	49

主クラッチレバーを握っていなくても、後車輪／耕うん爪が回転するとき

			参照頁
①主クラッチケーブル	⇨	正しく調整する	⇨ 55
②クラッチオイル量（入りすぎ）	⇨	規定量にする	⇨ 50

主クラッチレバーを握っても、後車輪が回転しないとき

①変速レバー位置	⇨	適正位置(前進･後進)にする	⇨ 36、37
②後車輪の保持ピン	⇨	外れている場合、取付ける	⇨ 26
③主クラッチケーブル	⇨	正しく調整する	⇨ 55
④クラッチオイル量	⇨	規定量にする	⇨ 50
⑤変速機オイル量	⇨	規定量にする	⇨ 51

主クラッチレバーを握っても、耕うん爪が回転しないとき

①変速レバー位置	⇨	適正位置(作業)にする	⇨ 36、37
②耕うん爪の保持ピン	⇨	外れている場合、取付ける	⇨ 57、58
③耕うん爪周り	⇨	異物(石等)が噛み込んでいる場合、取除く	⇨ 57、58
④主クラッチケーブル	⇨	正しく調整する	⇨ 55
⑤クラッチオイル量	⇨	規定量にする	⇨ 50
⑥変速機オイル量	⇨	規定量にする	⇨ 51

耕うん作業／移動ができないとき

・前車輪	⇨	適正位置にする	⇨ 27

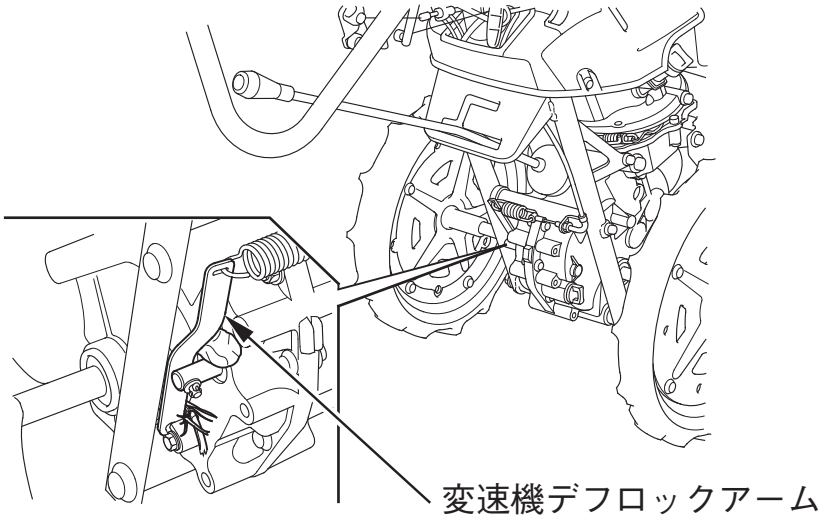
少し時間をおいてもう一度確めましょう

耕うん作業がうまくできないとき

			参照頁
①デフロックレバー	⇨	“直進”にする	⇨ 40
②チョークノブ	⇨	“運転”にする	⇨ 16
③前車輪	⇨	耕うん深さに合わせた位置にする	⇨ 27
④後車輪	⇨	左右を対称位置にする	⇨ 29
⑤ハンドル高さ	⇨	適正位置にする	⇨ 30
⑥各部のボルト／ナット	⇨	緩んでいる場合、締付ける	⇨ 25
⑦耕うん爪周り	⇨	草等が絡んでいる場合、取除く	⇨ 57、58
⑧耕うん爪	⇨	正しく組付ける	⇨ 57～63
⑨主クラッチケーブル	⇨	正しく調整する	⇨ 55
⑩エンジン回転数	⇨	エンジン回転数が低い場合調整する	⇨ 13
⑪エンジン回転調整ケーブル	⇨	正しく調整する	⇨ 54

デフ／デフロック機能が働かないとき

①デフロックレバー	⇨	正しく操作する	⇨ 40
②変速機デフロックアーム周り	⇨	異物(石等)が挟まっている場合、取除く	⇨ －



③デフロックレバーケーブル	⇨	正しく調整する	⇨ 56

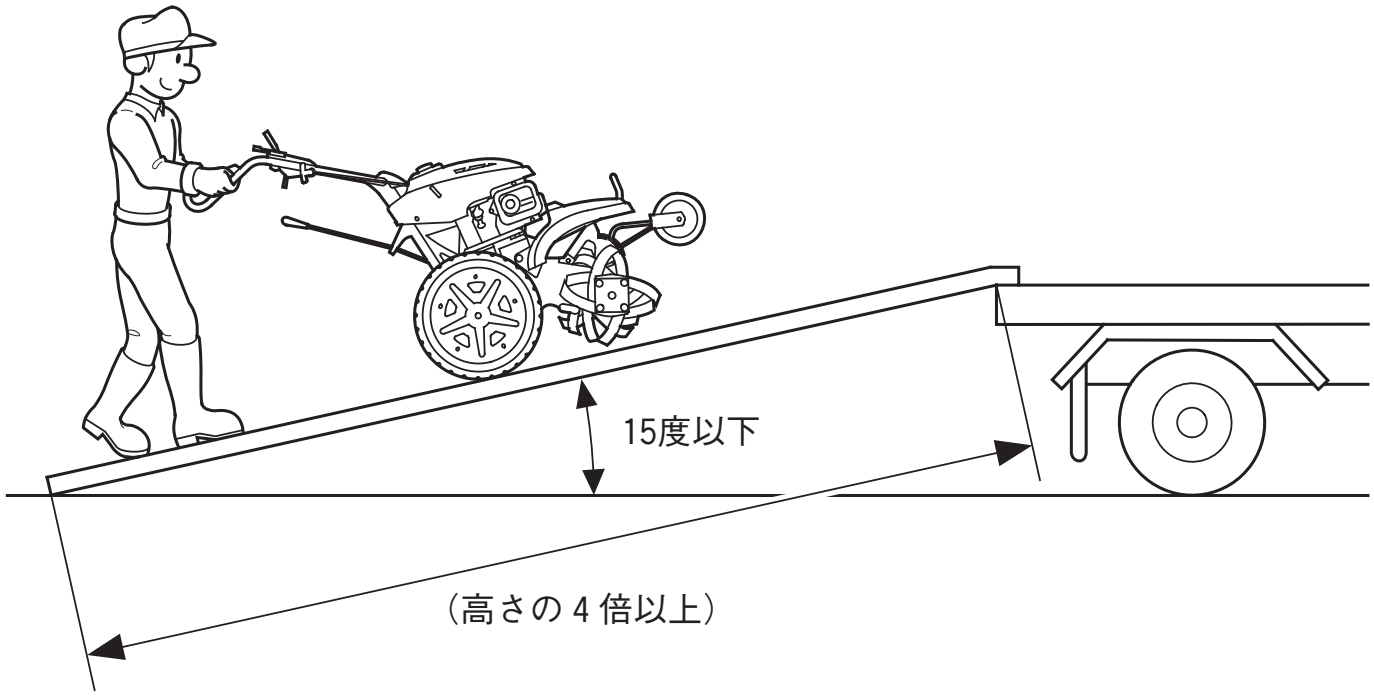
車への積載のしかた

車の荷台への積載

⚠警告

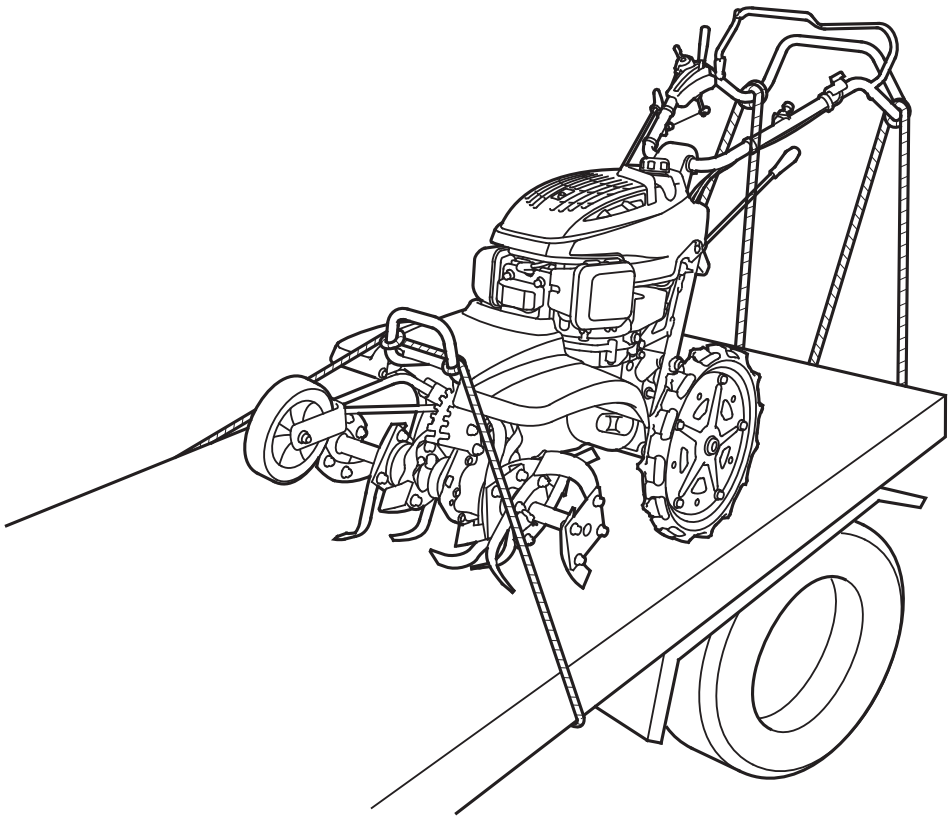
車(トラックなど)への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下によりケガをするおそれがあります。

1. 本機の寸法および重量の積載を満たす車(トラックなど)を使用してください。
2. 車(トラックなど)への積み降ろしは平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行なってください。
3. アユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、本機の傾斜角度が15度以下になる長さで、滑り止め、外れ防止フックのついた車輪幅以上の十分な幅がある丈夫なアユミ板を使用してください。(目安として車の荷台の高さの4倍以上の長さ)



4. アユミ板は車(トラックなど)に対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5. アユミ板は平行に並べ、本機後車輪の間隔に合わせます。(アユミ板の板幅中央の間隔を後車輪の間隔に合わせます。)
6. アユミ板の板幅中央に本機の後車輪を合わせ、アユミ板と後車輪を一直線にします。

7. 前車輪は最上段に合わせてください。(27頁参照)
8. エンジンを始動し、２～３分間暖機運転を行ってください。
(31～35頁参照)
9. 耕うん爪(ロータリ)装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
10. デフロックレバーをかならず**“直進”**にしてください。
11. 積み込みは、前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
12. 本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを放さないでください。主クラッチレバーを放すと駆動力が切れ、本機が思わぬ動きをすることがあります。
13. 積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れてください。
14. 燃料コックは**“止”**にして運搬してください。
15. ロープなどで固定します。本機が変形するような過大な荷重でロープを締付けないでください。



16. トラックから本機を降ろすときは、後進で行なってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

主 要 諸 元

名　　称		FF500
型　　式		ホンダFF500
区　　分		L
機体寸法	全　　長	1,730 mm
	全　　幅	585 mm
	全　　高	1,045 mm
全装備質量（重量）		78 kg
エンジン	名　　称	GCV160
	形　　式	空冷 4 ストローク単気筒（OHC）
	内径 × 行程	64.0 mm × 50.0 mm
	総排気量	160 cm^3
	連続定格出力／回転速度	2.1 kW (2.9 PS)/3,000 rpm
	エンジン最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	3.3 kW (4.5 PS)/3,600 rpm
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク容量	1.7 L
	エンジンオイル容量	0.55 L
	点火方式	トランジスタマグネト点火式
	標準点火プラグ	BPR5ES (NGK)
	始動方式	リコイルスタータ
主クラッチ方式		シュークラッチ
変速段数		前進 3 段 後進 1 段 作業 2 段
安全鑑定適合番号		29039

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。
量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品およびハンドルの組立てかた

次の手順と要領で本機を組立ててください。
組立ては本機を平坦な場所に置いて行ってください。

⚠注意
取付け作業は必ず手袋を着用してください。

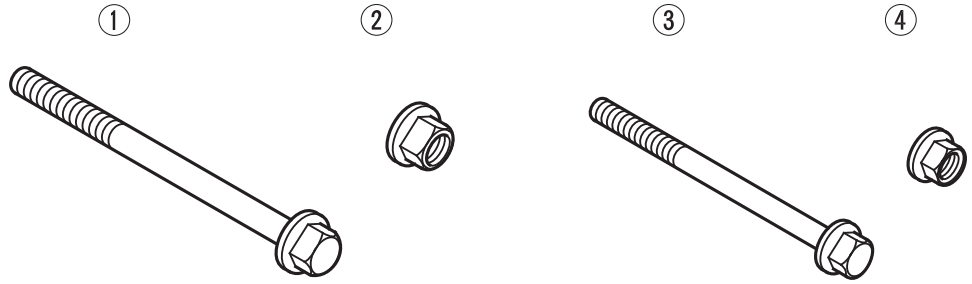
梱包を開き、同梱部品、本機を取出します。
下記同梱部品リストで部品点数および損傷の有無を確認してください。

同梱部品リスト

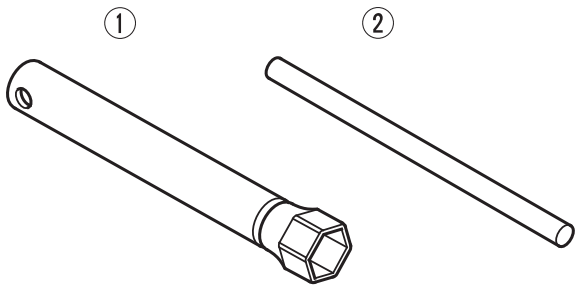
No.	組　付　部　品	個数
①	ハンドル高さ調整ボルト	1
②	10 mmフランジナット	1
③	フロントホイールボルト	1
④	8 mmセルフロックナット	1

No.	付　属　工　具	個数
①	プラグレンチ	1
②	プラグレンチハンドル	1

組付部品

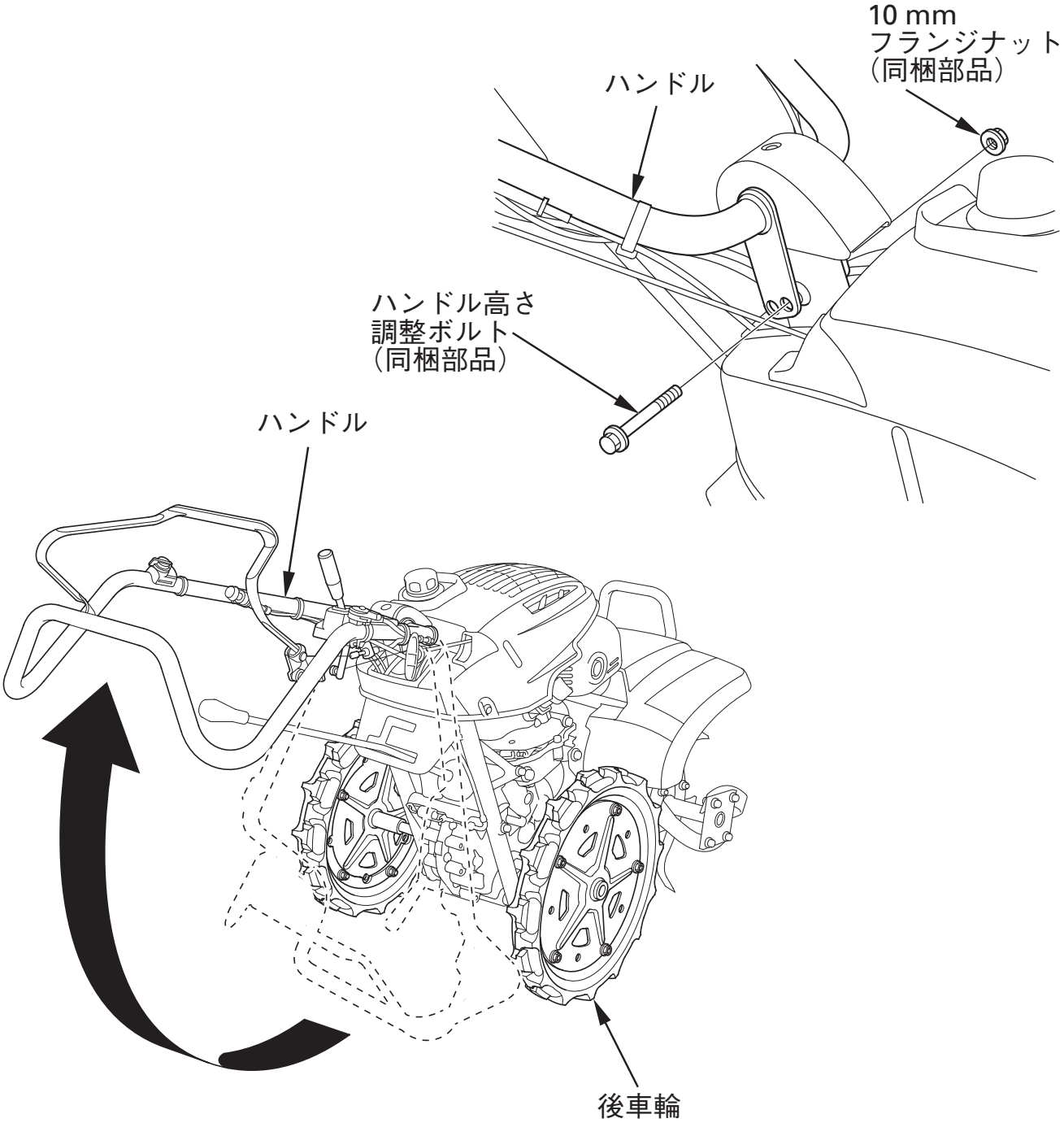


付属工具（お客様にお渡しください。）



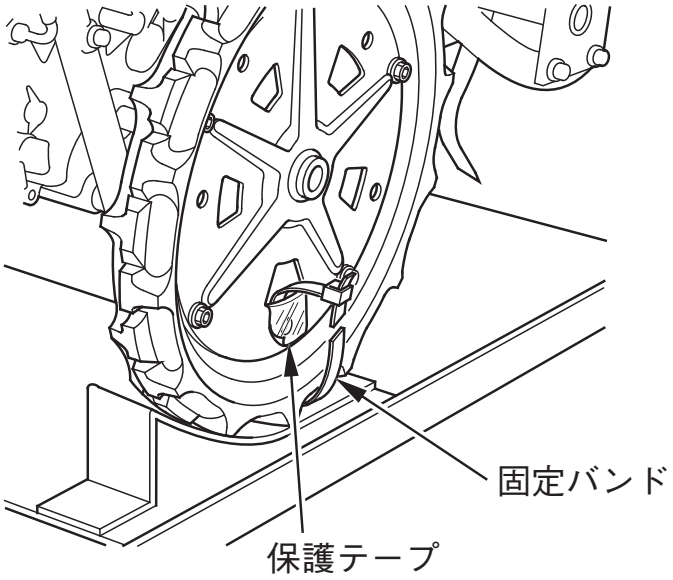
ハンドル

1. 後車輪に固定されているハンドルを解き放します。
2. ハンドルを上側に起こし穴位置を合わせます。
3. ハンドルにハンドル高さ調整ボルトを通し、10 mmフランジナットを規定トルクで締付けます。
   規定トルク： 40 N·m (4.0 kgf·m)

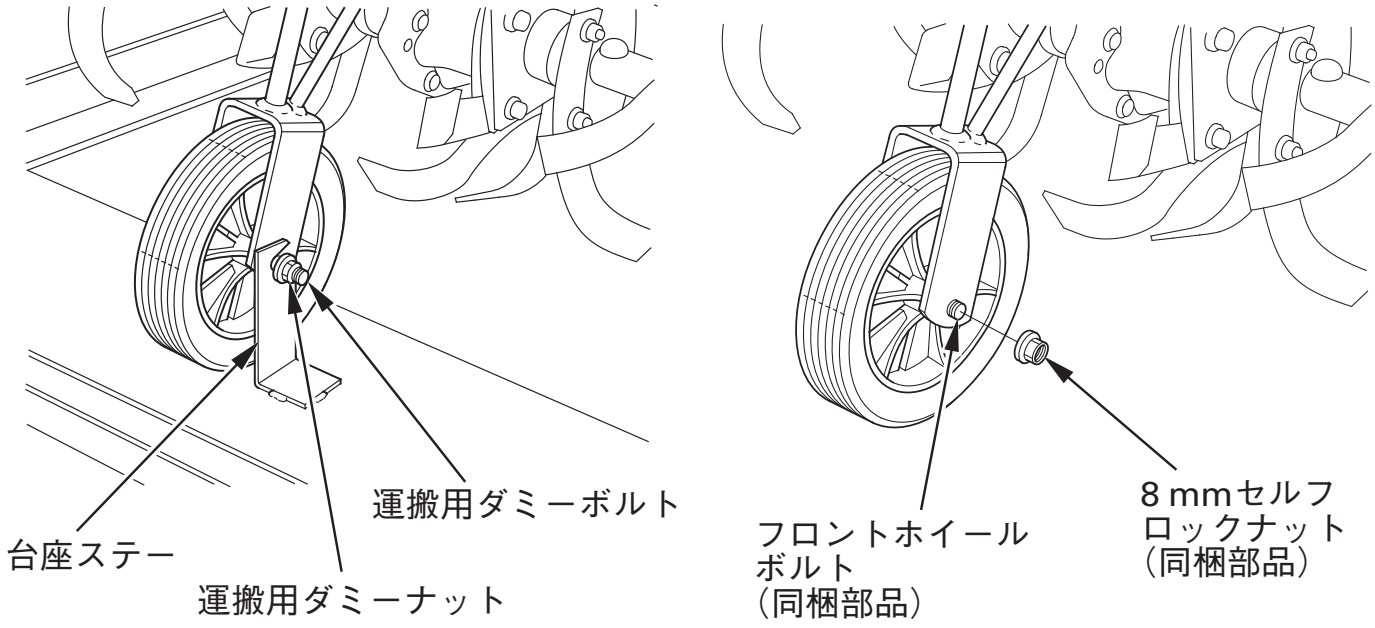


4. 運搬用台座に固定されている本機を解き放します。
   ・後輪を固定している固定バンドを切り、保護テープをはがします。
   ・前車輪側台座ステーの運搬用ダミーボルト、ナットをゆるめます。
5. 本機後部を持上げ、前車輪部を斜め後に持上げて台座から取外します。
6. 前車輪の運搬用ダミーボルト、ナットを取外します。（再使用しません）
7. 前車輪をフロントホイールボルト、8 mmセルフロックナットで取付け、規定トルクで締付けます。
   規定トルク： 22 N·m (2.2 kgf·m)
8. ハンドルの保護材を取り除きます。

［後部側］



［前車輪側］



その他

1. エンジンオイル、燃料を補給します。
   - エンジンオイルの補給(22、23頁参照)
   - 燃料の補給(20、21頁参照)
2. 取扱方法、エンジンの始動、停止方法をよく理解してから、エンジンを始動してください。
   - エンジンのかけかた(31～35頁参照)
   - エンジンのとめかた(42～44頁参照)

HONDA

The Power of Dreams

30V24603
00X30-V24-6032

Ⓢ Ⓨ HC 1500.2013.01

© 2009 本田技研工業株式会社